2018年度 点検評価改善報告書 [委員会別業務評価]



西南女学院大学 西南女学院大学短期大学部

整理番号				委員会名称	人事					委員会
大短委-2018-01	所属	大学・大学	⊭短期大学部 ——	———————— 担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課		
 委員会設置の	—— 根拠((規程等)	西南女学院大学	 全・西南女学院大学	上 学教員及て	 『助手選考規』	■■■■■ 則第2条			
		————— 委員長	稲木光晴	副委員	 長	大谷浩		末嵜雅美		
			目野郁子	稲木光晴		甲斐達夫		大谷浩		構成員数
構成		委員	神崎明坤	末嵜雅美						
										6
委員会の役割に 関する事項(概 要)	■大賞			れた人事計画の れた人事計画の					する。	
		項目	[事案]	<u> </u>	当該項目[雪	事案]の概要		決裁・意見	• 委託•.	上程の別
年度重点項目[事案]に関する				適正な人材の		,		上程		• 別科会
事項	昇任力		br .	公正な昇任				上程	-	・別科会
	特別タ	型約教員人事 項日	<u></u> [事案]	適正な人材の		「規、史新) 事案]の概要		上程 決裁・意見		・別科会
年度重点項目	円滑な	2委員会運営	*************************************					// 3% /E/JC	У д б	工作20001
[事案]以外に委員会が取り扱っ	採用遺	選考委員の選	選出							
貝芸が取り扱うた項目[事案]に		等への理解								
関する事項	採用う	予定者との連	基絡調整							
	項	 目[事案]	採	 用人事	決裁・:	意見・委託・	上程の別	上程	教授会	・別科会
			当該項目[事案]	によって、対象				· ·	· ·	7,1114
	P		■本学の採用人	、事の多くは、後f f究体制に支障がb	壬補充人事	である。	けた確保し	たい		
		計画		(思決定過程を勘算						
		<u></u>	■人事に係る意	(思決定過程を勘算	案し、適切]な人事作業	日程を策算	さする。		過程の
		計 ■	■人事に係る意 計画(P)を達成	(思決定過程を勘算なするために「誰がなった。) (記述するために「誰がなったがに」) (おおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおおお	案し、適切 が 」「何を]な人事作業↓ ↓ :」「どのよ:	日程を策算 う 」に行 っ	さたか	太	過程の 評価
	D	計 쏄 ↓ ↓ 施	■人事に係る意 計画(P)を達成 ■人事案件ごと 審査、面接、そ 人材を獲得する	(思決定過程を勘算	案し、適切 が」「何を 会を組織 実施して必動 対して必動	」な人事作業! ↓ 「どのよう」 し、公募要項 ■当該学科 要な働きかけ	日程を策気 う」に行っ の作成、 人を行った	Eする。 ったか 応募者資格審 等においては、 。■委員相互	. 適正な が選考期	評価 調 調
年度重点項目		1	■人事に係る意 計画(P)を達成 ■人事案件ごと 審査、で 人材を獲得する 間中に適宜コミ	(思決定過程を勘算 (するために「誰が に採用選考委員 たの他リサーチを うために学内外に ユニケーション	案し、適切 が 」「何を 会を組織 実施した。 対回り、選	」な人事作業! ↓ 「どのよう」 「公募要項 ■当該学科 要な働きかけ は考活動の誠意	日程を策気 う」に行っ の作成、員 を行った を行と有効	Eする。 ったか 応募者資格審 等においては、 。■委員相互 効性を担保した	. 適正な が選考期 。	評価 ■順 調 □遅 延 □未実施 結果の
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関		1	■人事に係る意 計画(P)を達成 ■人事案件ごと 審査、確得する 間中に適宜コミ 実施(D)によっ	就思決定過程を勘算 さするために「誰か に採用選考委員 たの他リサーチを うために学内外に ユニケーション って計画(P)は達所	案 し、適 「何 を 会 実対 図 「何 織 た 必 達 か が 」 「	」な人事作業 ↓ 「どのよう こ」「どのよう こ、公募要項 と、公募要科 要な働きかけ 達考活動の誠気 ↓ たか / 達病	日程を策気でいる。人のでは、一般である。これでは、一般である。人を行いる。人を性と有なる。と、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では、一般では	Eする。 たか 応募者資格審 等においては、 。■委員相互 効性を担保した 、ていない理由	. 適正な が選考期 。 は何か	評価 ■順 調延 □未実施 結果の 評価
		1	■人事に係る意 計画(P)を達成 ■人事を発生される。 ■人事をである。 ■人事をである。 一本をである。 一をでる。 一をでる。	(思決定過程を勘算 (するために「誰が に採用選考委員 たの他リサーチを うために学内外に ユニケーション	案 が 会実対を ず ボール が 会実対を ず ボール で が 会実対を ず 者 評 を 価 に た に た で か た に た で か か と で か た か と で か か と で か か と で か か と で か か か か か	」な人事作業! ↓ どのよう こ、公募要学科 要な活動の誠意 ↓ たか / 達所 とするに至った 業等) は、人	日程を策気 う」に で の人を再 を 大を 大を 大を 大を 大を 大 で 大 で 大 で 大 で 大 で 大	で たか 応募者資格審 等においては、 。■委員相互活動性を担保した ていない理由 (延べ8人)であ	. 適正な が選考期 。 は何か る。	評順選末 無調延施 の 成進持
[事案]の計画/ 実施/評価に関			■人事に係る意 計画(P)を達成 ■人事を発性を表 事ををでしまする。 ■人事をで ■人事をで ■人事をで ■人事をで ■人事をで ■大きので を は、し、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、し、と、	は思決定過程を勘算 はするために「誰か に採用サウトのでは、 なのでは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 ででは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でののでは、 でいれて、 でいれて、 でいれて、 でいれて、 でいれて、 でいれて、 でいれて、 でいれて、 にいれて、	案 が 会実対を 或 浦・n式 適 何を が 会実対を 或 浦・n式 進 L 程	」な人事作業 ↓ 「どのよう ・ 」 「公募要学かけ。 を すか には、 ・ たかるは、 ・ たかる。 ・ たかる。 ・ たかる。 ・ たかる。 ・ たかる。	日程を策策 う」 の人を性 ・ の人を性と が の が の が が が が が が が が が が	Eする。 oたか 応募者資格審注等に委員相互活動性を担保した ていない理由 (延不選考委員)	. 適正な が選考期 。 は何か る。	評価 ■ 順遅未 無課の ・ 結評の ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は
[事案]の計画/ 実施/評価に関			■ 本人間	は思決定過程を勘算 なするために「誰か に採用サウトランとにの他リングラントでは ののからなったがです。 でで計画(P)は達成 では、選用候者 ののうち調整、選ので ののものでする。	案 が 会実対を	」な人事作業 ↓ 「どのよう こ」、当のよう こ」、当動きの 要な活動動ができます。 上、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一、一	日程を う の人を 大 で で に 成委っ有 が も で に で に で に で に が ま で に で に で に で に で に で に で に で に が も も に は も し に は も し に は も し に は も し に は も に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に に は ら に に は ら に は ら に に は ら に に は ら に に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に は ら に に ら に に ら に ら に ら に に ら に に に に に に に に に に に に に	Eする。 たか 応募者資格審注等に表現相互流動性を担保した ていない理由 (延べ8人)で 「延べ8人」で 「延べ8人」で 「近べ8人」で 「でして 「でして 「でして 「でして 「でして 「でして 「いこと 「して 「いこと 「して 「いこと 「いこと	. 適選考期 。 は何か る。 の連絡調 びで連絡	評順選末 ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は ・ は

	項目][事	[秦]	昇任人事	決裁・意見	・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
				当該項目[事案]によって、対象(
	Р	計	画	■昇任人事申請資格者に対して、 に人事が行われるようにしたい。 ■人事情報の適正な管理を行う。	大学評議会の)人事方針に基づく	審査基準等を	・明確に示し、公正
	D	↓	施	計画(P)を達成するために「誰が ■昇任人事に関する申し合わせ事 評議会の人事方針に基づく審査基	耳を作成し、	教授会及び別科会		■順 調
		↓		■人事委員会において人事日程、 公正な人事を手続の面からも担保	申請に係る名 した。 ↓	各種様式、申請資材		台果の
	С	評	価	実施(D)によって計画(P)は達成 ■申請期間及び選考期間の終了ま その責務を果たした。 ■選考の結果について、候補者の 授会の場や対象者に対して説明責	での間、委員 発任可否に関	員会は人事の透明性 関する委員会として	生、公平性の額	観点からご
		Ţ			1			□後 退
	Α	改		評価(C)をふまえて、次年度に行 ■特になし。			いこと	
年度重点項目 [事案]の計画/	次年度 見通し			次年度における計画 (P) の修正 ■特になし。	・変更・廃』	Eの見通し L		
実施/評価に関 する事項	項目][事]	[[]	特別契約教員人事	決裁・意見	・委託・上程の別	上程	教授会・別科会
	Р	計	画	当該項目[事案]によって、対象(■大学評議会による特別契約教員 期の教育研究体制の充実のために	に係る人事力	5針に基づき、本学	≧の「特色ある	教育」の推進と次
		1			1			過程の
	D	実	施	計画(P)を達成するために「誰が ■新規の案件については、候補者 に該当する職位について審査を行 ■更新の案件については、大学記 た推薦理由書等を確認し、教授会	fから提出され った。 ^z 議会の人事フ	れた個人調書及び	教育研究業績	■順 調 □ 遅 延 □ 未実施
		1		実施(D)によって計画(P)は達成	↓ ・前准 たか	、 / 達成・前准し	ていたい理由	結果の は何か 評価
	С	評 ↓		■新規案件は1件であり、すべての有研究業績書の審査により、適切 ■更新案件は4件であり、すべての	の案件で候補 な職位を案と	者を上程するに至っ して確定させた。	った。個人調	
		•		評価(C)をふまえて、次年度に行	うべきこと	/ 行うべきではな	いこと	
	A	改	善	■特になし。				
	ک ا	欠年度 見通し		次年度における計画(P)の修 ■特になし。	正・変更・原	を止の見通し		

				王日人の伊兴 写	4の宮芸ダ河に		/l¬+ =++\ =		ト台ニートナ	1.01.
	Р	計	画	委員会の運営・通常 ■人事案件ごとに ■各人事案件を同一 ●各委員及び担当普 資料等作成(複類	日程管理を行い 一日程で並行し 部局が時程管理	ヽ、理事会への レて行い、委員 埋について相互	上程期限を逸する 及び関係部局の負 に理解し、スケシ	ることが無い』 負担を軽減した	こうにした こい。	.V`o
		1			(2)	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	72.			ነው ተ መረ
		•		計画(P)を達成する	ろために「誰ナ	・ ヾ」「何を」「	どのよう」に行っ	ったか		過程の 評価
				■学生昼休み時間特						
	D	実	施	■人事案件ごとの選 ■人事委員が採用選 ■回覧業績資料は、	選考日程は、選 選考委員と連絡	選考委員会に裁 B調整を密にし	量を与え、十分な 、作業工程管理を	よ日程を確保し と徹底した。		■順 調 □遅 延 □未実施
		Ţ				Ţ				結果の
委員会の運営・		·		実施(D)によって言	計画(P)は達成	は・前進したか	/ 達成・前進し	していない理由	は何か	評価
通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	С	評	価	■採用面接を除き、 ■各委員及び担当部 ■欠席委員の事前で コミュニケーション	部局は、スケシ 確認と了承、	ジュール調整に 委員長による欠	柔軟に対応した。 C席委員への事後		員会外の	□達 成 ■前 進 □維 持 □停 滞
		Ţ				↓				口後 退
				評価(C)をふまえて						
	A	改	善	■採用選考の当該会検討は継続を要する		こよる評価表取	りまとめに際し、	、委員会とし、	ての統一的	的取扱いの
				次年度における計画	前(P)の修う	F.麥面.廢止	の目通し			
				■本年度から使用				実態をふまえた	ながら引き	は続き改善
	が 見	《年度 見通し		を加えていきたい。		1752 7 -> H IM 50			~ J J C	
	項目	[事案	[]	円滑な委員	会運営	決裁・意見・	・委託・上程の別			
	項目	[事案	[]にf	- 系る規程上の根拠	委員会及び執	(行機関の役割)	に関する規程第2	条、第5条	•	
	■人事	案件に	こ係る	昭局は連絡調整を密しる学科人事委員は日報 日本課を果たした。					担当部局と	学科との
	項目	事案	[]	採用選考委員	員の選出	決裁・意見・	・委託・上程の別	決裁		
				系る規程上の根拠	西南女学院大		院大学短期大学部		選考規則	第6条
				会は、手続において						
委員会が取り		事案		法令等への			委託・上程の別			
扱った項目[事				系る規程上の根拠 ▽学設置基準、本学	212 (1212 12		に関する規程第6	1.1 21.	アノフ 田町	百つなれてっ
案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	1 1-			(子政直基準、本字) 員会として共通認識を		7.方侧舆徐宏节	といつに、伝行	寺にも関わつ	(くの问题	見じめるこ
	項目	[事案	[]	採用予定者との	の連絡調整	決裁・意見・	委託・上程の別			
	項目	事案	<u>[]</u> に	系る規程上の根拠		•		_	•	
				○採用予定者との連絡 さもに、担当課は法 <i>。</i>				長と連携して打	采用予定者	音と然るべ
	T百F	事案	[]			決裁・音目・	委託・上程の別			
				<u> </u> 系る規程上の根拠		//纵 忘兀	女化 工性切別			
	クロ	11世末	.][~]	小 の が1生工 ツバス アグ						

整理番号				委員会名称					教務	委員会
大短委-2018-02		大学・大	学短期大学部 ——	担当部局等	部局等	教務部	課	教務課		
委員会設置の	根拠((規程等)	西南女学院大学	生・西南女学院大学	短期大学	*部会議規則第	39条、耄	放務委員会規程		
		———— 委員長	伊藤 直子	副委員:	Ę	友原 嘉彦		末嵜 雅美		
			前田 由紀子	嶋村 美由紀		近江 雅代		ブラウン馬本	鈴子	構成員数
構成		委員	穴田 和子	藤川信幸		7217		. , , . , . , . , . ,	~ -	
		X H	八田 和1	/#/ ID +						9
				この修学上の支援を					1	
委員会の役割に 関する事項(概 要)	3重点	学郊• 転受	利に関する事項	-る事項 2. 学生の 4. 研究生、科目等 6. その他教務に関	層修出	酶議生 蛙則				
左连手上项口			目[事案]		該項目[基	事案]の概要		決裁・意見	・委託・	上程の別
年度重点項目[事案]に関する			チェックリスト」につ			一」作成のた	-	意見		
事項	機	関要件の確	認」について	高等教育段階の教	女育費負担	軽減新制度への対	お応のため	意見		
		項	目[事案]	当	該項目[雪	事案]の概要		→決裁・意見	・委託・	上程の別
年度重点項目					復学、除	籍、復籍の審	議	決裁	教授会载	報告
[事案]以外に委員会が取り扱っ				受入れの審議	144-7		عد- جا-ر	上程	教授会	
た項目[事案]に			者の委嘱について					上程		候補者選考会議
関する事項	半 兼	判定につい		則期木・年度	木の쑤弟	判定について	の番譲	上程	教授会	
	項	 目[事案]	「アセスメント・チ		決裁・	 意見・委託・_	上程の別	意見		
	Р	計画	学生の学修成界	 によって、対象(艮の評価(アセスメ Dいて定めた「アセ	ント)に	こついて、その	目的、i	達成すべき質的		ド具体的実
		1				1				過程の
				なするために「誰が ゝ・ポリシー」の作					ZADIZ	評価
	D	実施	対してはそれる DPに対しては	と満たす人材か、C はそれを満たす人材	Pに対	してはそれに則	則り学修	が進められてい	いるか、	■順 調 □遅 延 □未実施
			可能な範囲で移	討してもらった。						
年度重点項目 [事案]の計画/		1	実施(D)によっ	って計画(P)は達成	• 前准1	→ .たか / 達成	• 前准1	.ていない理由	は何か	結果の 評価
実施/評価に関する事項	С	評価	各学科の検討は	こより、3つのポリ ・チェックリスト」	シーに対	対して、測定す				■達 成 □前 進 □維 持
		1				1				□停 滞 □後 退
				えて、次年度に行						
	Α	改善	目的、達成する	J能なアセスメント ヾき水準及び具体↓ ⊆向けて検討を進め	的実施力	i法などについ				
			次年度における	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し						
		次年度 見通し								

	項目][事》	包]	「機関要件の確認」について 決裁・意見・委託・上程の別 意見	
	7(1	1 1 3 7	17.3	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画	文部科学省より「高等教育段階の教育費負担軽減新制度」が打ち出された。その支援指となるためには、「機関要件」を満たしている必要があり、「要件1」における実務総教員による授業科目が標準単位数の1割必要であることから、重点項目と位置付け、名務家教員科目が1割あるかどうか確認することにした。	経験のある
		1		↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施	教務委員を通じて、各学科において新教育課程、旧教育課程を通して、実務家教員及 び担当科目の検討をお願いした。	■順 調 □遅 延 □未実施
		Ţ		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
	С	評	価	各学科より実務家教員科目の報告がなされた。その結果、各学科で標準単位数の1割は配置されていることが確認できた。それに伴い、シラバスについても学生が実務家教員科目であることがわかるように求められ、成績評価をはじめ様々な内容を含む必要があり、それに伴い「シラバス作成要領」についても改訂した。	
		1		↓	□後 退
	A	改	善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 現在、新教育課程、旧教育課程があり、その進捗状況や、非常勤講師にも実務家教員といしているため、今回の実務家教員科目の確認は、流動的なものでもある。今後、毎年ながら、対応を行いたい。	
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
年度重点項目	3 5	欠年度 見通し			
実施/評価に関 する事項	項目][事3	[条]	「機関要件の確認」について 決裁・意見・委託・上程の別 意見	
)				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		1		1	過程の
		•		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		□順調
	D	天	ルビ	<u> </u>	□遅 延 □未実施
		1		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の評価
	С	評	価		□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞
		Ţ		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	□後 退
	Α	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	3	文年度 見通し			

				委員会の運営・通常の	家議経過に	上って 対象	り (何を・誰	を) をどの	上うた状態	能にした	いのか	\
										感にした	0.07/3	
		÷L	ida.	■第1回目の教務委員 ■新入生に対して、基								
	Р	ĀΤ	쁴	■利八生に刈して、至	(使子刀) / ヘ	ト(ノレツ)	74-7.	ヤレンン)	を始める。			
		ļ				↓					過程	
				計画(P)を達成するた	めに「誰が.	」「何を」	「どのよう」	に行ったか			評価	<u> </u>
				■今年度の審議・検討	スケジュー	ルに従い、著	帯りなく実施	することが	できた。			
	D	実	施	■基礎学力テストにつ						収集を	■順	
				行う。							口遅	
											口未実	ミ施
		1				1					公士 田	σ
委員会の運営・		*		カサ/5) に し マミエ	(<u></u>	→	. / + +	** ****	<i>4</i> ∼1 , 700 <i>4</i> −1	± <i>1</i> → t.	結果	
通常の審議経過				実施(D)によって計画							評価	
等に係る計画/			_	■基礎学力テストのデ					学生の写	修成果	■達	成
実施/評価に関	С	評	価	を確認するうえで、重	要なテータ	を収集するこ	ことができた	0				進
する事項												持
												滞
		Ţ				Ţ					□後	退
				評価(C)をふまえて、	次年度に行	うべきこと	/ 行うべき	ではないこ	٢			
				■引き続き、毎年度、						生を行う		
		改	¥	■月で脱さ、毎十度、	利八生、〇八	を诞 ナカティ	へ下を天旭し	、 が区形にロソバニ	7 7 4X 3	老を117	0	
	Α	叹	普									
				次年度における計画	(P)の修正	・変更・廃.	止の見通し					
	•	e Arr etc										
	~ ~	7年度										
	氕	通し										
	項目][事案	⊴]	転学部・転学科に	ついて	決裁・音見	・委託・上科	日の別	上程	数	授会	
		4 L T /r	~_	121 Hb 121116	- '	777W 10070	× 10 13	T - 2 /3 3		3/	<i></i>	
	古口	1 車 安	27 <i>1 – 1</i> :	でて担犯しの担拠 西	南七学院士	⇒ 「おご☆☆7 。	 二半到担印					
							転学科規程					
				系る規程上の根拠 西 、転学部・転学科の応								
	■昨年		き続き		募があった。	。保健福祉等	学部から人文	· 学部へ。	意見			
	■昨年項目	に引き 1[事案	き続き ミ]	、転学部・転学科の応 体学・退学防止のための学科に	募があった。	。保健福祉等	学部から人文	· 学部へ。	意見			
	項目	に引き 1[事案 1[事案	き続き E]に係	、転学部・転学科の応 体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠	募があった。	決裁・意見	学部から人文 ・ 委託・上 種	学部へ。		小のた り	の形が	O 2相
	■昨年 項目 ■昨年	に引き 1[事案 に引き	き続き ミ] を続き	、転学部・転学科の応 体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、2017年度退学者数及	募があった。 おける取組状況 び退学理由	,保健福祉 (学部から人文 ・ 委託・上和 もとに、各学	学部へ。 星の別 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	=度退学防			
	■昨年項目■昨年みを作	に引き [事案] に引き 成し、	き続き E] に係き 教務	休学・退学防止のための学科に 係学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 で、2017年度退学者数及 る委員会で報告した。名	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をでの退学防	学部から人文 ・ 委託・上和 もとに、各学 止の改善策内	学部へ。 2の別 科が2018年 日容を共有す	=度退学防			
	■昨年項目■昨年みを作	に引き [事案] に引き 成し、	き続き E] に係き 教務	、転学部・転学科の応 体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、2017年度退学者数及	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をでの退学防	学部から人文 ・ 委託・上和 もとに、各学 止の改善策内	学部へ。 2の別 科が2018年 日容を共有す	=度退学防			
	単昨年項目項目事年年作改みや改	に引き 目[事案 目[事案 に引き に成し、 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	き続き ミ]に似 き続き 教務こつい	休学・退学防止のための学科に 係学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 で、2017年度退学者数及 る委員会で報告した。名	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表を での退学防 をさらに次生	学部から人文 ・ 委託・上程 もとに、各学 上の改善策内 下度に繋げて	学部へ。 星の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
子马人珍丽川	単昨年項目項目事年年作改みや改	に引き [事案] に引き 成し、	き続き ミ]に似 き続き 教務こつい	休学・退学防止のための学科に 係学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 で、2017年度退学者数及 る委員会で報告した。名	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表を での退学防 をさらに次生	学部から人文 ・ 委託・上和 もとに、各学 止の改善策内	学部へ。 星の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
委員会が取り	■ 昨年 項目 項目 可年 本の 本の 可	に引き 目[事案 に引き に成し、 が善策に 目[事案	き続き [[] [[] [] [] [] [] [] [] []	休学・退学防止のための学科に 係学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 で、2017年度退学者数及 る委員会で報告した。名	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表を での退学防 をさらに次生	学部から人文 ・ 委託・上程 もとに、各学 上の改善策内 下度に繋げて	学部へ。 星の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事	■ 昨年 項目 項目 可年 本の 本の 可	に引き 目[事案 に引き に成し、 が善策に 目[事案	き続き [[] [[] [] [] [] [] [] [] []	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (、 2017年度退学者数及 (、 3017年度退学者数及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度) (募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表を での退学防 をさらに次生	学部から人文 ・ 委託・上程 もとに、各学 上の改善策内 下度に繋げて	学部へ。 星の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]の う ち特に	■ 昨年 項目 項目 可年 本の 本の 可	に引き 目[事案 に引き に成し、 が善策に 目[事案	き続き [[] [[] [] [] [] [] [] [] []	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (、 2017年度退学者数及 (、 3017年度退学者数及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度) (募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表を での退学防 をさらに次生	学部から人文 ・ 委託・上程 もとに、各学 上の改善策内 下度に繋げて	学部へ。 星の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 昨年 項目 項目 可年 本の 本の 可	に引き 目[事案 に引き に成し、 が善策に 目[事案	き続き [[] [[] [] [] [] [] [] [] []	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (、 2017年度退学者数及 (、 3017年度退学者数及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度) (募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表を での退学防 をさらに次生	学部から人文 ・ 委託・上程 もとに、各学 上の改善策内 下度に繋げて	学部へ。 星の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]の う ち特に	■ 昨年 項目 項目 可年 本の 本の 可	に引き 目[事案 に引き に成し、 が善策に 目[事案	き続き [[] [[] [] [] [] [] [] [] []	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (、 2017年度退学者数及 (、 3017年度退学者数及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度 <u></u>	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表を での退学防 をさらに次生	学部から人文 ・ 委託・上程 もとに、各学 上の改善策内 下度に繋げて	学部へ。 星の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 項目■ みみみ項目項目	に引き 目[事案] [事案] に引き、 に成善策に 事案 目[事案]	き続き [[に係る] [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る数 [に係る] [に係る] [に係る] [に修える] [に修なる] [に	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (、 2017年度退学者数及 (、 3017年度退学者数及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度 <u></u>	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をである。 ないます。 の集計表をである。 ないます。 の集計表をできる。 ないます。 はいます。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするるる。 はいまするる。 はいまするるるる。 はいまするるるるるる。 はいまするるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる	学部から人文 ・委託・上租 もとに、	学部へ。 全の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ では、	に引き [事案] 「事案] に成善策 「事案] 「は成善策 「事案] 「事案] 「「事案]	き続きを表記に任き教教と	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (※ 、2017年度退学者数及 (※	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をである。 なおいる。 ないます。 の集計表をである。 ないます。 の集計表をできる。 ないます。 はいます。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするる。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするるる。 はいまするる。 はいまする。 はいます	学部から人文 ・ 委託・上程 もとに、各学 上の改善策内 下度に繋げて	学部へ。 全の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ では、	に引き [事案] 「事案] に成善策 「事案] 「は成善策 「事案] 「事案] 「「事案]	き続きを表記に任き教教と	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (、 2017年度退学者数及 (、 3017年度退学者数及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度退学者及 (、 3017年度 <u></u>	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をである。 なおいる。 ないます。 の集計表をである。 ないます。 の集計表をできる。 ないます。 はいます。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするる。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするるる。 はいまするる。 はいまする。 はいます	学部から人文 ・委託・上租 もとに、	学部へ。 全の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ では、	に引き [事案] 「事案] に成善策 「事案] 「は成善策 「事案] 「事案] 「「事案]	き続きを表記に任き教教と	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (※ 、2017年度退学者数及 (※	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をである。 なおいる。 ないます。 の集計表をである。 ないます。 の集計表をできる。 ないます。 はいます。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするる。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするるる。 はいまするる。 はいまする。 はいます	学部から人文 ・委託・上租 もとに、	学部へ。 全の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ では、	に引き [事案] 「事案] に成善策 「事案] 「は成善策 「事案] 「事案] 「「事案]	き続きを表記に任き教教と	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (※ 、2017年度退学者数及 (※	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をである。 なおいる。 ないます。 の集計表をである。 ないます。 の集計表をできる。 ないます。 はいます。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするる。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするるる。 はいまするる。 はいまする。 はいます	学部から人文 ・委託・上租 もとに、	学部へ。 全の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ では、	に引き [事案] 「事案] に成善策 「事案] 「は成善策 「事案] 「事案] 「「事案]	き続きを表記に任き教教と	(、転学部・転学科の応 (体学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 (※ 、2017年度退学者数及 (※	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をである。 なおいる。 ないます。 の集計表をである。 ないます。 の集計表をできる。 ないます。 はいます。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするる。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするるる。 はいまするる。 はいまする。 はいます	学部から人文 ・委託・上租 もとに、	学部へ。 全の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ では、	に引き [事案] 「事案] に成善策 「事案] 「は成善策 「事案] 「事案] 「「事案]	き続きを表記に任き教教と	株学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、2017年度退学者数及 系委員会で報告した。名 での参考となった。今 系る規程上の根拠	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の集計表をである。 なおいる。 ないます。 の集計表をである。 ないます。 の集計表をできる。 ないます。 はいます。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまする。 はいまするる。 はいまする。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするる。 はいまするるる。 はいまするる。 はいまする。 はいます	学部から人文 ・委託・上租 もとに、	学部へ。 全の別 科が2018年 容を共有すいく。	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項 項	に引き 1 [事案] 1 [事 1 [事 1 [事案] 1 [事案] 1 [事案]	き続き を	株学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、2017年度退学者数及 系委員会で報告した。名 での参考となった。今 系る規程上の根拠	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の作品を含め、	学部から人文 ・委託・上租 もとの改繋がて ・委託・上租 ・委託・上租	学部へ。 2の別 科が2018年 容を共有すいく。 2の別	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 項項昨をや 項項 項項 項項 項目目年作改 目目目	に引き 事事事に成善 事事引き、は 事事事引き、は 事事事事事事事事事事事事事事事	き続き	株学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、 2017年度退学者数及 系委員会で報告した。 名 いての参考となった。 今 系る規程上の根拠 系る規程上の根拠	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の作品を含め、	学部から人文 ・委託・上租 もとに、	学部へ。 2の別 科が2018年 容を共有すいく。 2の別	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 項項昨をや 項項 項項 項項 項目目年作改 目目目	に引き 事事事に成善 事事引き、は 事事事引き、は 事事事事事事事事事事事事事事事	き続き	株学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、2017年度退学者数及 系委員会で報告した。名 での参考となった。今 系る規程上の根拠	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の作品を含め、	学部から人文 ・委託・上租 もとの改繋がて ・委託・上租 ・委託・上租	学部へ。 2の別 科が2018年 容を共有すいく。 2の別	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 項項昨をや 項項 項項 項項 項目目年作改 目目目	に引き 事事事に成善 事事引き、は 事事事引き、は 事事事事事事事事事事事事事事事	き続き	株学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、 2017年度退学者数及 系委員会で報告した。 名 いての参考となった。 今 系る規程上の根拠 系る規程上の根拠	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の作品を含め、	学部から人文 ・委託・上租 もとの改繋がて ・委託・上租 ・委託・上租	学部へ。 2の別 科が2018年 容を共有すいく。 2の別	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 項項昨をや項項 項項 項項 項目目年作改 目目目	に引き 事事事に成善 事事引き、は 事事事引き、は 事事事事事事事事事事事事事事事	き続き	株学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、 2017年度退学者数及 系委員会で報告した。 名 いての参考となった。 今 系る規程上の根拠 系る規程上の根拠	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の作品を含め、	学部から人文 ・委託・上租 もとの改繋がて ・委託・上租 ・委託・上租	学部へ。 2の別 科が2018年 容を共有すいく。 2の別	=度退学防			
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を	■ 項項昨をや項項 項項 項項 項目目年作改 目目目	に引き 事事事に成善 事事引き、は 事事事引き、は 事事事事事事事事事事事事事事事	き続き	株学・退学防止のための学科に 系る規程上の根拠 、 2017年度退学者数及 系委員会で報告した。 名 いての参考となった。 今 系る規程上の根拠 系る規程上の根拠	募があった。 おける取組状況 び退学理由 学科・別科	決裁・意見 の作品を含め、	学部から人文 ・委託・上租 もとの改繋がて ・委託・上租 ・委託・上租	学部へ。 2の別 科が2018年 容を共有すいく。 2の別	=度退学防			

整理番号			委員会名称	学生					委員会
大短委-2018-03	所属 大学・大学	牟短期大学部 ——	担当部局等	部局等	学生部	課	学生課		212121
委員会設置の	<u>└───</u> ┃ 根拠(規程等)	「学生委員会規程	 呈」第1条						
	委員長	横溝 紳一郎	副委員	長	手嶋 英津子		谷崎 太		
		金山 正子	文屋 典子		手嶋 英津子		友原 嘉彦		構成員数
構成	委員	谷崎 太	三宅 利佳		横溝 紳一郎				7
委員会の役割に 関する事項(概 要)	に関する事項、 ⁴ る事項について		ド厚生事業に関す	る事項、	学生の保健管		する事項、その)他厚生被	捕導に関す
年度重点項目	一般奨学生制度の	1[事案]	「大学一般奨		事案]の概要		決裁・意見 上程	大学評詢	
[重家]に関する	特別奨学生制度の		「大学特別奨				上程	大学評評	
学 快	学生表彰制度の身		「学生表彰規				上程	大学評評	
	項目	[事案]	当	該項目[哥	事案]の概要		決裁・意見	・委託・	上程の別
年度重点項目	一般奨学生の募集				17名(観光 4年	三なし)	意見	学長	
[事案]以外に委 員会が取り扱っ	特別奨学生の選択				導対象者4名	11 . 1\ Ir	意見 決裁	学長	
た項目[事案]に 関する事項	学生生活に関する	5 美態調査	12月美施、20	115年度人	学者の経年変	学者の経年変化分析			
	項目[事案]	一般奨学生制度の)見直し	決裁・i	意見・委託・」	=程の別	上程	大学	評議会
	P 計画 ↓	当該項目[事案][■現行の一般奨学 与え、周囲の学生 不要の給付型奨学 い。	学生制度を見直し 生の学びと成長の 学金の充実化を図	、一人で ○模範とな 図り、奨学	ごも多くの向学 よるべく、なお 対金などの学費 ↓	:心溢れる 一層の学 接助制原	る優秀な学生に 学業の伸長を奨 度に対する学生	こ受給の5 受励したい	v。■返還 ぎを上げた <mark>過程の</mark>
	D 実施	計画(P)を達成で ■学生のニーズは 廃止。その他、 程」「大学一般生	こ応じて、予算筆 GPAが同値の	^{施囲内で約} 場合の取	合付金額の弾力 扱いを規定す	力的設定	を可能にし、		評価 ■順 調 □遅 延 □未実施
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	↓ C 評価	実施(D)によって ■本制度改正に。 る運用上の混乱。 度の募集から制度	より一部の在学生 を考慮し、2023年 ま改正の予告案内	育無償化制度 ^注 ことが承認。I う。	結果の ■達前維停後 □□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□				
	A 改善	評価(C)をふまえ ■入試部におい 前期日程・短期 格化について検記	て、特定の学生に 大学部特待生入詞 対する予定。	に有利・7 式) との虫	下利のないよう を合性を図るた	に、本間 .め、人ご	制度と特待生制		
	次年度 見通し	次年度における記	↑画(P)の惨』	二 发史:	「廃止の見通し	•			

	項目	[事案]]	特別奨学生制度の見直し	決裁・意見	・委託・上程の別	上程	大学	評議会
				当該項目[事案]によって、対象(
	Р	計证	画	■現行の特別奨学生制度を見直し 奨学金の過払い等の運用上の課題			映した名称に改	て称すると	こともに、
		ļ		計画(P)を達成するために「誰が	↓ 」「何を」「	「どのよう」に行	ったか		過程の 評価
	D	実 加	施	■「特別奨学金」から「スポーツ 休部に伴う給付金の取扱い、併用 受給資格の喪失要件等を具体化・ 別奨学生規程細則」の改正を検討	プラスタッグ (単一) 「 プラスタック 学の経済に 関確化する)	」に改称。異動等 的支援制度に係る	の届出義務、 規定を追加する	るほか、	■順 調 □遅 延 □未実施
		1		実施(D)によって計画(P)は達成					結果の 評価
	С	評値		■「大学一般奨学生規程」等の改入学者より適用する。	正に合わせ、	て、2023年4月1	日に施行し、2	2024年度	■達 成□前 進□維 持□停 滞
		1			↓				口後 退
				評価(C)をふまえて、次年度に行	うべきこと	/ 行うべきでは	ないこと		
	A	改善	善						
				次年度における計画(P)の修正	・変更・廃」	止の見通し			
年度重点項目 [事案]の計画/	次 見	年度 通し							
実施/評価に関	項目	[事案]]	学生表彰制度の見直し	決裁・意見	・委託・上程の別	上程	大学	評議会
する事項	Р	計画		当該項目[事案]によって、対象(■学生の日常的な活動に目を向け 欲的に自己研鑽に励むよう、学生	、表彰を以て	て積極的に評価す			より一層意
		ı			Ţ				過程の
	D	実力	拖	計画(P)を達成するために「誰が ■現行の「学長賞」のほかに「学 等、正課以外の自主的な活動によ れる個人・団体表彰するための必 表彰規程」として取り纏めた。	を受励賞」 さいて、他のな	を新設し、サーク 学生の模範となる	ル活動や社会!	が認めら	評価
		1			↓				結果の
	С	評(実施(D)によって計画(P)は達成 ■「大学学生表彰規程」は2019年 関する内規」を廃止する。					□前 進 □維 持
		ļ		評価(C)をふまえて、次年度に行	↓ うべきこと .	/ 行うべきでは	ないこと		□停 滞□後 退
	Α	改善	Ė						
				次年度における計画(P)の修	正・変更・原	廃止の見通し			
	 次 見	年度 通し							

				委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にした	いのか
				限られた時間内で集中した審議を行う。	
	Р	計	画		
		Ţ			過程の
		*		↑ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
				委員長が審議事項の背景、ポイント、参考となる事項を説明した。	
	D	実	施	*	■順 調□遅 延
					口走
					·
委員会の運営・		†		★ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
通常の審議経過				審議の論点がずれることなく議論が進み、時間の短縮にもつながった。	
等に係る計画/ 実施/評価に関	С	評	価		■達 成 □前 進
大心/計画に関する事項			-		口維 持
					口停 滞
		Ţ		↓ 	口後 退
				評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	Α	改	盖	今後も継続して取り組む。	
		44	_		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	次	年度			
	見	通し			
	項目	[事案	₹]	特別奨学生の選考 決裁・意見・委託・上程の別	
				系る規程上の根拠 「大学特別奨学生規程細則」第3条	
	顧問が:	長期に	木職中	であるため、2020年度より、AO入試B方式(スポーツ活動優秀者募集タイプ)の対象	象種目から
	硬式テ	ニスを	を除め	することが決定。2019年度採用の特別奨学生の卒業を以て、一般サークルとなる。	
	百日	[事案	2]	決裁・意見・委託・上程の別	
				系る規程上の根拠	
	것니	レナオ	C] C	1. 30 % 性工 50 代度	
			_		
委員会が取り		事案		決裁・意見・委託・上程の別	
扱った項目[事	項目	上事案	€」(こ{ :	系る規程上の根拠	
案]のうち特に					
状況等の記載を 要する事項					
X / U T X					
	項目	[事案	€]	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	₹] (こ{	系る規程上の根拠	
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
				系る規程上の根拠	
	-,,-				

	整理	番号	記屋	大学・大学	2. 信期十学	委	員会名称	就職				委員会
大	短委-	2018-04	川馮	八子・八日	一应别八子	担	<u>l</u> 当部局等	部局等	学生部	課	就職課	
	委員会	会設置の	根拠(規程等)	就職委員	会規定						
			1	委員長	横溝 維	一郎	副委員	Ę	岡田 和敏		藤田 稔子	構成員数
	構	成			横溝 維	一郎	高橋 幸夫		高橋 甲枝		岡田 和敏	押 ,从只
	冊	14%	4	委 員	近江 雅	代	藤田 稔子		坂田 美登里			- 8
												°

学生の就職指導に関する事項、学生の就職斡旋に関する事項について審議する。 委員会の役割に 関する事項(概 要) 当該項目[事案]の概要 決裁・意見・委託・上程の別 項目[事案] 年度重点項目 3年生を対象とし、就職に向けて具体的に指 行ら [事案]に関する 卒業生アンケート・就職受け入れ先 回収率アップ、調査結果の分析、結果に対す 事項 今後の取り組みについて検討する へのアンケート調査について 決裁・意見・委託・上程の別 項目[事案] 当該項目[事案]の概要 年度重点項目 学内合同企業説明会開催について 企画・運営を学生にゆだねる [事案]以外に委 学生の基礎学力補完について 全学年(特に3年)対象に数学講座を実施 員会が取り扱っ で、担目教具への状况報音(月初 進路決定に向けて、教員と就職課との連携 た項目[事案]に X) 関する事項 インターンシップについて インターンシップ参加実績・報告会の実施 就職ガイダンスについて 就職情報サイト運営会社の協力をえる 項目[事案] 少人数対象のセミナー開催 決裁・意見・委託・上程の別 当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか 就職活動を本格的に開始する以前(3年生次)に、専門職就職・一般企業就職などの特性や時期 等を細かく指導する機会をつくる。学科で取得可能な資格を用いて就職する場合の動き、資格不 Р 計 問で就職を考える場合では、就職活動の仕方が異なる。できるだけ、学生個々の考えに沿って 「就活」を早期から考えさせる機会を作ることを目標に置く。さらに、就職課との関わりを低学 和歌! めよい四点と動きで 1 渦程の 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 評価 一般企業就職を考える学生(人文学部)に後期すぐに少人数セミナーを実施。人文学 ■順 調 部ゼミ担当教員の協力を得て、それぞれ学生が必ず出席できる日時を設定。就活手帳 D 実 口遅 延 やスライドを基に今後やっておくべきこと、就活の時間的流れ、企業との向き合い方 等を指導。少人数開催のため、質疑応答もできるだけ活発にできるよう配慮した。同様に専用職に対応されることが出せ、おこれ、の中に4年代からの声域ではボノフカ 口未実施 1 結果の 年度重点項目 評価 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か [事案]の計画/ 現段階で就活を開始している3年生を見る限り、少人数で丁寧に指導した内容を理解せ □達 実施/評価に関 ず、個々に就職課に尋ねることも多い。前年度の実施が7月だったため、今年度後ろ倒 価 する事項 C 口前 進 しして行ったにもかかわらず、似た状況を作り出している。一部の学生は意図する動 口維 持 きをしてはいるが、多くは結局個別指導で再度話をしなければならない。セミナーの ■停 滞 田松計1 かけかばかくかいしばいている □後 退 1 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 少人数セミナーは継続して開催する。企業就職の開始時期等、曖昧になっていることを踏まえ、 より充実したセミナー、開催時期を検討中。いつ、どのように実施することがベストであるか 改 を、それぞれの就職委員と協議の上、改善策を練りたい。 次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し 就活に限定して学生指導するのではなく、低学年から卒業後の進路をイメージさせ、さらに学科 教員との連携を深める努力をしたい。学年により学生の特徴が異なっていたり、カリキュラムの 次年度 見通し 内容等も就職課としてさらに把握して、企画を考えていきたい。全学的、学年ごと、職種ごと 等、本学の幅広い進路に関して、より教員との連携を深め検討することから、始めたい。

	項目	[事案	[]	卒業生・就職受け入れ先アンケート 決裁・意見・委託・上程の別
	Р	計	画	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか 卒業後就職1年目の卒業生が就職先からどのように評価されていいるか、一方卒業後3年目を迎え ている卒業生自身が、在学中・現在どう成長しているかを知るためのアンケート調査を継続して 行う。アンケート調査から見えてくることを大学として、どう改善していくべきか考えるツール とすることが目標。
	D	実	施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 例年アンケートの回収率が悪いことが課題。その問題回復のため、北九州市内とその 周辺企業に就職した対象者・対象企業へアンケートを直接持参して、協力を求めた。 また卒業生への働きかけを、各学科ゼミ担当教員から行った。メール・電話等を就職 課でも行い、回収率を上げる努力をした。
	С	評	価	↓
	Α	↓	善	→ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと アンケート記入の面倒や、自宅郵送し協力をお願いすることの限界を感じる。一方、努力して回収したアンケートをどう活用していただいているのかも見えにくい。アンケート調査のための活動になってはいないか。疑問。就職委員会でのアンケート結果に対する各学科の取り組み等を確認はするが、学科もそればかりに集中はできないと思う。もっとこの調査を有効活用できない
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関	見	で年度	• 7	次年度における計画 (P) の修正・変更・廃止の見通し アンケート調査は大学評価等にも関わるポイントであることは理解しているが、もう一歩踏み出して考えなければ意味がない。就職委員会から見た改善すべき点、伸ばしてほしい点を検討後、学科に考えてもらうことはどうか。卒業生がかかえる問題を在学中に改善できる指導を少しずつ考え、実行してみることを検討する。
する事項	項目	事案	<u>:</u>]	学内合同会社説明会開催 決裁・意見・委託・上程の別
	Р	計	画	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか 企業就職活動を目指す学生向けのイベントとして、学生スタッフを中心に「学内合同会社説明 会」を実施。2018年度後期すぐから自ら希望する学生に企画・企業との折衝・実施を任せる。 1・2年生を対象に学生スタッフを募集。学生スタッフが各学年の中心的存在となり、それぞれ周 囲の学生に好影響を早期から及ぼす存在となってほしい。参加企業に本学学生の良さを感じてい
	D	実	施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか 学生スタッフは当初21名の参加希望があり、順調にスタートをきった。毎週水曜日昼 休みにミーティングを重ね、彼らに課題解決に向かって考え、実行していくことを学 ばせる機会とした。リーダーを作らず、全員にできるだけ同様の経験をさせるよう取 り組んだ。人文学部のみならず栄養学科の学生も参加した。1年・2年ほぼ同数。3年1
	С	評	価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 当初予定通りに活動は進んだが、合説を2月13日開催としたことから、後期試験に支障 がでないよう配慮を心掛けたため、事務的作業を就職課で行った。指導に徹する予定 から、実務を担当することになって残念だった。学生スタッフ個々の力量差があり、 問題と感じている。ただし、この活動を通して企業人と直接関わった経験は、今後に
	Α	↓	善	→ □後 退 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと この活動は2019年度も継続して実施する。今年度の活動から反省すべき点は、まず活動時期を前倒しすること。もっと時間をかけて学生スタッフを育てていく。幸い1年生が多くいたため、彼らが継続参加してくれれば、さらに活動の幅が広がる。また、合説を3年生中心に考えてきたが、学内開催という環境から低学年の学生にもっと多く参加してもらえる工夫を考えたい。
	· 次 見	マ年度 通し		次年度における計画 (P) の修正・変更・廃止の見通し 前期オリエンテーションでの就職ガイダンスをもっと活用し、学内合説スタッフを増やしていき たい。希望してくれる学生が、この活動に参加して成長できた、よかったと感じてくれる内容に ブラッシュアップしていきたい。準備期間を長くとることで間延びしない工夫が必要。学生の経 験値が上がることは、就活に断然有利。

	Р	計		委員会の運営・通常 就職委員会での報告 分。委員会では各名 き。開催実績のため	告事項は極力省 学科の協力をお	いていきたい S願いする、学	。メールや学 注科から就職課	内LAN等で委員。 への要望等を「	との連絡・ 中心に時間	報告は十 引を割くべ
	D	実		計画(P)を達成する 係長・課員それぞれ 行った。就職委員会 あり、就職課として	れが求人・就活 会では資料配布	に関する報告 し、その説明	等をメールや は短時間で行	学内掲示板を使 った。学科毎に		過程の 評価 ■順選票 □未実施
委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	С	評		実施(D)によって言簡単な報告と学科でた。時間的にも委員	での検討をお願	いした事項に	ついて、委員	から報告を受け		結果の 評価 成進 ■前 進持 □停
	Α	↓	善	評価(C)をふまえて 就職委員会では委員 今年度、委員長から 極的に誘っていたた でお願いする予定。	員に就職課イベ らの積極的な働	ントを詳しく きかけで、学	説明し、参加学 内合説スタップ	学生を増やす協っ フが多くなった。	授業等で	□後 退 したい。 ご学生を積
	見	ヾ年度 !通し		次年度における計画 継続、さらなる充実				74		
	項目項目][事案	[] (C 存	系る規程上の根拠			委託・上程の5 委託・上程の5			
委員会が取り	項目][事案	[]	系る規程上の根拠 の根拠 系る規程上の根拠		決裁・意見・	委託・上程の	別		
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	項目	[事案		**る残怪工の依拠 **る規程上の根拠		決裁・意見・	委託・上程の	別		
	項目][事案		系る規程上の根拠		決裁・意見・	委託・上程のク	別		
	7,1	. 		NO THE WAR						

	整理番号 大短委-2018-05		記屋	十学,十学	短期大学部	委	員会名称	大学宗教				委員	会	
J				八子、八子	应朔八子即	担当部局等		部局等	学生部 課		学生課			
	委員会	設置の	根拠(規程等)	「大学宗教	委員会規	見程」第1条							
		成		委員長	古川 敬康		副委員	Ę	神崎	明坤		東 彩子	構成	吕粉
	構				新谷 恭明		山根 正夫		山田	志麻		神崎 明坤	一一行人	貝奴
	1#		1	委 員	東 彩子		古川 敬康						6	3
														,

117 /20	委員		東彩子	古川 敬康				6	
委員会の役割に 関する事項(概 要)	学生の宗教	指導に	ご関する事項、その 何	也宗教に関する事項につ	かいて審議する。				
		項目	[事案]	当該項目[雪	事案]の概要	決裁・意見	・委託・	上程の別	
年度重点項目 [事案]に関する	チャペル・	特別行	庁事の企画・検討・	奨励者の選定、学生の	指導等	決裁			
事項	運営			講師の工夫・週報の工	法(内容)				
	チャペル礼								
			[事案]		事案]の概要	決裁・意見	・委託・	上程の別	
年度重点項目 [事案]以外に委	クリスマス スマス献金	・礼拝で のため	での有志によるクリ うのバザー	学内クリスマス献金の 画・検討・実施	ための募金活動の企	<u>決裁</u>			
員会が取り扱っ た項目[事案]に	チャペルの			, , , , , , , , , , ,					
関する事項	クリスマス	礼拝の	- O公開性						
	項目[事	案]		決裁・対	意見・委託・上程の別				
	P 計	画	キリスト教に基づっ	よって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか く本学の教育の中で、特に重要な意味をもっているチャペル礼拝(ミ 礼拝等の特別行事を含む)の内容を企画・検討し、学生と教職員に 妾する機会となるように週報の内容を充実させている。					
							狄 佩貝(
	ļ						秋 柳	過程の	
	↓ D 実	施	教の真理と福音に打 計画(P)を達成する ■大学短期大学部 学チャペルに全学 実施している。■		∴週報の内容を充実させ↓:」「どのよう」に行っ: 席制である。1年生のととなるように、大講真生を涵養し視野を広げ	せている。 ったか み全員出席制 ⁻ 養室2か所に中終 ることのできる	である大 迷放送を る人物を	評価 ■順 調 □遅 延	
	↓ D 実	施	教の真理と福音に持 計画(P)を達成する ■大学短期大学部 学チャペルに全学 実施している。■ 招き、その工夫 の る。	まする機会となるように るために「誰が」「何を では1、2年生全員出版 主と全教職員が参加可能 講師には、学生の人間付)一環として学科推薦の	週報の内容を充実させ↓上」「どのよう」に行っ常制である。1年生の ととなるように、大講員生を涵養し視野を広げり計師選定枠を設け、	せている。 ったか み全員出席制 [*] 養室2か所に中約 ることのできる 内容の充実を図	である大 迷放送を る人物を 図ってい	評価 ■順 調 □未実施 結果の	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	↓ D 実 ↓ C 評		教の真理と福音に表 計画(P)を達成する ■大学短光にるます。 学手施し、このでは ●は出り、ことを教の。 実施(D)にとな教の。 は増えなりである。 は増えなりである。 は増えなりである。 は増えなりである。 は増える学生深いののある。 は増える学による。	まする機会となるように 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3ために「誰が」「何を 3たは 1 (2年生全加入間間の できるにはして学科・前はこ全員のでは、一世のは、一世のでは、一世のは、一世のでは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世のは、一世の	上週報の内容を充実させます。	せている。 ったか み室2とか み室2との充 出席にできる とのないない。 はい世出以せおかに ないと年入し学後期 入は対対に はいりいい。	で は こり さ とう は こり ほう とう は こり ほう とう は こり さい か 学 席 に 生 に え な と な と は 対 の 際 た	評価 ■□□ 結評 順遅未 果価 ・ 選前維 ・ 選前維	

A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■大学2年生以上の出席者を増やすには、チャペル出席について、大学・大学短期大学部の方針に基づいて、その意義と必要性を、2年生以上との接触のあるアドバイザーやゼミ担当教員を通してなど、学生に繰り返し喚起し呼び掛けることが肝要である。この実施につき、教員の共通理解と協力体制が必要である。 ■
次年度 見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し 特になし。

	項目	[事3	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		Ţ		1	過程の
		·		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		□順 調
			,,,,		口遅 延口未実施
		Ţ			結果の
		*		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価
	С	評	価		口達 成
		P.	limi		□前 進 □維 持
		ļ			口停 滞口後 退
		*		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	Α	改	善		
		ЦX	戸		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	,			次年度における町画(F)の修正・変更・廃正の見通し	
	3) 5	マ年度 見通し			
年度重点項目 [事案]の計画/					
実施/評価に関する事項	項目	[事3	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
7 0 7 7				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		ļ		↓	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		口順 調
					口遅 延口未実施
		Ţ		1	結果の
		•		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価

С	評	価		⊒前組	成進持滞
	Ţ		\downarrow	□後	退
			評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと		
A	改	善			
			次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し		
	欠年度 見通し				

				委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にした	いのか
				■キリスト教に基づく女子教育に沿った全学的なチャペル計画を策定した。	
	Р	計	画	•	
		↓		↓	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
				■外部講師の人選について、宗教主事は、院長、学院宗教主任、学長、副学長に内諾	
	D	実	施	を得て、宗教委員会で意見を聴取し、承認を得た。	■順調
					□遅 延 □未実施
					ロホ天心
チョックを選出		Ţ		↓	結果の
委員会の運営・ 通常の審議経過				実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価
等に係る計画/				■当初の計画どおりチャペルを実施した。	□達 成
実施/評価に関	С	評	価		■前 進
する事項					口維 持
					□停滞□後退
		Ţ		↓ 	口後 返
				評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
		- L		■讃美歌や奨励に学生が興味を持ち、集中力を持続する力を一層持てるように讃美歌やについての検討を続け、チャペル礼拝の充実を目指す。	講師選定
	Α	以	普	についての快的を続け、ナヤベル化件の元夫を目指す。	
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
				特になし。	
		年度			
	見	通し			
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
				系る規程上の根拠	
				・マストン スポープ ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス ファイス	動と行っ
				『携室の協力により、クリスマス礼拝の会場にてバザーを実施し、収益金は、集まった募	
	クリス	マス繭	献金と	: し、被災地等へ寄付した。	
	項目	[事第	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	[[[]	系る規程上の根拠	
未日みが売り		[事第		決裁・意見・委託・上程の別	
委員会が取り 扱った項目[事	項目	[事案	を]に	系る規程上の根拠	
案]のうち特に					
状況等の記載を					
要する事項					
	-F F	15=	- 1	4. + + + + + + + + + + + + + + + + + + +	
		[事第		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	事第	軽」に	系る規程上の根拠	
	頂日	[事案	돈]	決裁・意見・委託・上程の別	
	坦日	I L 丁 矛	K] -]	か、ひが北土・ジバスア	

				評	価		事務部長 判定
		項目	◎:十分	〇: 概ね十分	Δ:不十分	×:未実施	良好/概ね良好
			一次評価	i(担当部局)	二次評価	(委員長)	/普通/改善
委員会及び担当	1	委員会運営をとおした管理運営業務の効率化	0		0		
部局の役割・責		各種会議体に上程する原案立案への取組み	×		0		
任に関する共通 評価項目	3	各種会議体からの委託に応じるための取組み	×		0		
評価項目	4	個々の委員の職責遂行(出席・意見・助言)	0		0		
		担当部局による調査・分析・情報収集	0		0		
	0	教職協働の状況	0		0		
	7	委員及び事務担当者の負担軽減のための努力	0		0		
			価等(自	由記述欄)			
		担当部局			委員	*	
共通評価項目に 係る関係役職者	料作り稟議制		価という協力がこのでは、 といの様ののでは、 おいの様のない。 といいのでは、 といいのでは、 といいのでは、 といいのでは、 といいのでは、 かいのでは、	サイクルのおります。サイクルのおります。これは実力を含ままで、おりままでは、いいのでは、いいのでは、いいのののが、いいのののが、いいのののが、いいのののが、いいのののが、いいのののが、いいのののののののの	動が実現したよりないないないないないないないないないないでは、はいいないないないないないないないないないないないないないないないないないな	ているの各にない。 たが、大いなでは、 たるでは、 たるとこのでは、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、 では、	、キリスト教セン 科・学計務と 理がまの で頭を きいと で頭を たにで で頭る。 に に で で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の で の で の で の で の で の で の で の で の で の の で の で の で の の で の の の の の の の の の の の の の
の意見・評価等	⇒上1面(_		当該部局野	· ·	ふご 日日 でむしァ ナン	n #おされ、	ナハス このこと
	は、	ー美地一評価が有美に美地されていることで、 キリスト教センター、各学科・学部選出の宗教 されていると考えられる。	委員、学	告り へらぶ」, 生課、地域連	が明確には携室など、	各関係者の	継続的努力により
		事務部長(西南女学院大学・西南女学院	院大学短期	胡大学部規則領	第27条及び	第28条に基づ	づく)

整理番号		1 2/4 1 2/4	: /→ Lbn	委員会名称	研究紀朝	更				委員会
大短委-2018-06		大学・大学	□ 短期大字部 —	担当部局等	部局等	附属図書館	課	図書課		
委員会設置の	根拠	 (規程等)	紀要規程第4条	、研究紀要委員会	 規程					
		委員長	野井未加	副委員	長	マルコム・スワンソン		命婦恭子		
			小野正子	野井未加	野井未加 坂巻路可			マルコム・ス	ワンソン	構成員数
構成		委員	命婦恭子	南里宏樹		西川 忍				
										7
委員会の役割に 関する事項(概 要))募集に関する₹ うに関する事項₹	事項、研究紀要の紀 を審議する。	扁集に関す	トる事項、研究	紀要の	刊行に関する事	項、研究	岩紀要の 発
		項目	[事案]	<u>ਜ</u>	i該項目[哥	事案]の概要		決裁・意見	• 委託 • .	上程の別
年度重点項目 [事案]に関する	小山女/	編集・発行日				る日程の導入		決済		
事項		記録用紙の概念を変われ		査読記録用組			-h- / -	決済		
	修止		†照表添付につい [事案]			等の添付を明 事 案]の概要	又化	決済 → 決裁・意見	. 禾红 .	上把小別
年度重点項目 [事案]以外に委	「投		「 サネ 」 ハクリスト」英語			スト」英語版	の作成	決済	安武".	上性の別
員会が取り扱った項目[事案]に										
関する事項										
	T百	[目[事案]	幻 西 絙 隹 •	 発行日程の変更	油井 . →	意見・委託・」	- 钽の別	決済		
	Р	計画	■2016年度からる。]によって、対象 ら検討を重ねた結り なするために「誰だ	果、試行期	∄間として2018	3年度か	ら変更した日程		F業を進め 過程の 評価
	D	実施	■5月に行って	いた原稿募集を4. 員が余裕をもって記	月に行い、	執筆期間、2	- 孟読後の	修正期間を長く	く設定す	■順 調□遅 延□未実施
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	С	↓ 評価	■20件の投稿	o て計画(P)は達原 申し込みがあっただ 後の辞退1件、不採	び、投稿部	達退11件により	提出され	れたのは9件でる	あった。	結果の 評価 □ 達 成 ■ 単維 持 □ 申 湯
	A	改善	■紀要Vol.23	まえて、次年度にぞ (2019)は、1999 ⁴ 日程の変更による ⁵ る。	手のVo1.3	に次いで2番目	に少な	い掲載件数とな		
		次年度 見通し	次年度におけ なし	る計画(P)の修]	E・変更 [。]	・廃止の見通し	,			

	項目	[事案]	査読記録用紙の様式変更 決裁・意見・委託・上程の 別 決済
	71.		当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか
	Р	計画	■2017年度発行の紀要Vol. 22において、査読で指摘された箇所が修正されないまま掲載された論文があったことが判明した。■防止策として、査読記録用紙にある「査読結果」の「修正採択・再査読不要」の項目を、「修正採択(査読者による修正の確認あり)」とし、修正箇所を査読者が確認することとした。
		1	→ 過程の
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■該当する4件の原稿について、査読者に修正箇所の確認を依頼した。 ■順 調□遅 延□未実施
		ļ	→ は ・
	С	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 評価 ■4件の原稿は、修正箇所を査読者が確認し、ルールの変更については問題なく遂行さ ■達 成れた。■紀要がリポジトリで公開されるようになり多くの人の目に触れるようになっ □前 進た。査読修正の意向が反映されないまま公開されるリスクを防ぐ意味で、査読記録用 □維 持紙の様式変更は適切であった。
		1	↓
	Α	改善善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■査読記録用紙の様式を変更するに至った過程に、研究者の資質の問題が挙げられる。■倫理審査委員会主催の研修会は毎年開催されているが、研究紀要委員会で論文執筆、研究の進め方についての勉強会を開催してはどうかとの意見があり、今後の検討課題としたい。
			次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し
年度重点項目 [事案]の計画/	次 見	(年度 通し	なし
実施/評価に関 する事項	項目	[事案]	修正論文の新旧対照表添付について 決裁・意見・委託・上程の別 決済
, , ,	Р	計画	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか ■紀要Vol. 22(2018)に続いて今年度も査読で指摘された箇所が充分に修正されていない論文があった。委員会はこれを極めて重大な問題と受けとめた。■該当論文には修正新旧対照表または査読者への回答書がなかったことも査読者の指摘原因の一つと考えられるため、査読記録用紙の様式変更に加え、修正原稿に新旧対照表または査読者への回答書を添付することを明文化する。
		1	↓ 過程の
	D	実施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■修正原稿提出時に、修正箇所の新旧対照表または査読者への回答書を添付するよう 査読結果通知文書に明記する。■通知文書の変更は2019年度からとする。 □順 調□遅 延□未実施
		1	★ 結果の
	С	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■修正原稿に新旧対照表を添付することは研究者として当然のことであるため、委員 会ではこれまでその提出の有無を執筆者に一任していた。今回の文書化で、適切な査 読、適切な修正のためのルール作りが一歩進んだと考える。 □維持□停滞
			評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと
	Α	改善善	
			次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し
	 次 見	(年度 通し	なし

					-
	Р	計	画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたい。 ■「西南女学院大学紀要Vol.23」の発行を目標とし、編集・発行業務が円滑にすすむようケジュールを作成する。■施行期間として、変更した「紀要編集・発行日程」で作業を行査読候補者選考を慎重に行うため、2017年度から委員会の開催数を増やしたが、2018年度とする。	年間ス
		1		↓	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施	し、円滑な編集作業に協力を求めた。	順 調 遅 延 未実施
委員会の運営・ 通常の審議経過		1			結果の 評価
毎年の番譲程過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	С	評	価	慎重に行うことができた。■問題が生じた投稿論文については時間をかけて議論を し、委員会として適切な判断を下すことができた。■問題の解決にあたっては、事務 担当者と委員長が綿密な打ち合わせを行い、円滑な会議の進行に努めた。	達 成 進 持 滞 停
		1		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	後退
				評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	A	改	善	■リポジトリによる紀要の公開は、本学のPRになるとともに大きなリスクを抱えることり、委員会の責任は今後ますます重大となる。委員会は執筆者の研究活動を支える一方で会、執筆者、査読者の役割を明確にし、よりよい論文を生み出すシステム作りに尽力する。	:、委員
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
		年度 通し		なし	
	項目	[事案]	「投稿論文チェックリスト」英語版 決裁・意見・委託・上程の別 決済	
	項目	[事案]に信	系る規程上の根拠	
	記録用組あるかる	紙の英 どうか	·語版 ·継続	え予定であった「投稿論文チェックリスト」の英語版が、英語学科教員の協力により完成しておいてのできます。 など合わせて今後活用することになった。■「紀要執筆申合せ」英語版の作成については、 は課題とすることになった	
		[事案		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案]に	系る規程上の根拠	
	百日	[事案	1	決裁・意見・委託・上程の別	
委員会が取り				系る規程上の根拠	
扱った項目[事案]のうち特に 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項					
		[事案		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案]に	系る規程上の根拠	
		[事案		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案]にf	系る規程上の根拠	

#		1		エ ロ ^ 2 * 4	/\ BB =#6					~ F A
整理番号	所属	大学・大学	学短期大学部	委員会名称 ——————			_	1		委員会
大短委-2018-07				担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課		
委員会設置の	根拠((規程等)	公開講座委員	員会規程						
		委員長	林裕二	副	委員長	境田靖子		末成妙子		·構成員数
## 			隅田由加里	杉本有紗	;	境田靖子		林裕二		1件从貝奴
構成		委 員	末成妙子							_
										5
委員会の役割に 関する事項(概 要)	る事項	開講座委員: 頁を審議す		学院大学及び西南	可女学院大学 统	豆期大学部 全	全体として∃	上催又は共催す	る公開詞	帯座に関す
左连手上项口		項目	[事案]			事案]の概要		決裁・意見		
年度重点項目 [事案]に関する	公開記	構座の開催			マーカレッシ 市社会福祉協		・ライキハシケン	決裁	本部事	务局長
事項				(467691)	中任芸価征版	競会との多	*武笑利)			
		項目][事案]		当該項目[-	事案]の概要		決裁・意見	・委託・	上程の別
年 度 重 点 項 目 [事案] 以外に委										
員会が取り扱っ										
た項目[事案]に 関する事項										
	項	目[事案]	公園	開講座の開催	決裁・	意見・委託	・上程の別	決裁	本部	事務局長
				案]によって、対 第55条及び短期大						
	Р	計 画 ■開催に当たっては、リピーターである受講生にとって新鮮なもの 選出及び講座形態(講義、演習、実習、見学等)に関して工夫を図						ものとなるよう、講座担当講師		
		1	3177/3143	+	Γ= 4 1 \$. Γ -	↓	- 1-1-	h 1.		過程の
				<mark>達成するために</mark> 「 生人北九州市社会					年長者研	評価
	D	実施	修大学校周望	望学舎の主催のも マーカレッジは、	と本学が共作	崔し、シニア	プサマーカレ	ッジを開催し	た。	■順調
				る講座で、本学専			111 1 1 (C 35)1/37		タエッカ	口未実施
年度重点項目		1			1 1 1 1 1 1 1 1	↓				結果の
[事案]の計画/ 実施/評価に関			実施(D)に。 ■受講者は4	よって計画(P)は 11名。	「達成・前進し	ったか / 達	፤灰・前進し	ていない埋田	は何か	評価 ■達 成
する事項	С	評価	■本学各学科	科及び別科の専門					ウンセン	口前 進
				会見学も実施する マーカレッジの円					0	□維 持 □停 滞
		1				ţ				口後 退
				ふまえて、次年度 する教育資源を聶					パンが変ん	レに宣むむ
	Α	改善	のであるよ	う努める。						
				ンケート結果にお ・別科と連携を図		意見等に応え	えることが゛	できるよう、孝	受会と!	_ン て今後一
			次年度におり	ける計画(P) <i>0</i>	の修正・変更	・廃止の見	通し			
		次年度 見通し		室による地域貢献 の地域貢献活動		別化を図り、	公開講座。			

	項目][事	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		Ţ		↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施		□順 調 □遅 延 □未実施
		ţ		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
	С	評	価		□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞
		1		↓	□後 退
				評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	Α	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
年度重点項目 [事案]の計画/	次年度 見通し				
実施/評価に関 する事項	項目][事	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
9 旬 事項				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		Ţ		↓.	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		□順 調□遅 延□未実施
		1			結果の 評価
	С	評	価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	□達 成 □前 進 □維 持
					□停滞 □後退
		•		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	, ~ <u>~</u>
	A	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
) 5	欠年度 見通し			

	Р	計		委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にした ■シニアサマーカレッジの開催による公開講座の実施に際し、各委員をとおして各学科 の連携を図り、本学の教育資源を有効に活用したい。	
		ţ		↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施	■シニアサマーカレッジ企画・実施した。 ■各委員は、毎年のプログラム内容を勘案しながら所属教員に講師を依頼した。 ■担当部局は、シニアサマーカレッジの開催に伴う渉外及び学内連絡調整を行った。 ■シニアサマーカレッジ受講生アンケートの結果を検証した。	■順 調 □遅 延 □未実施
委員会の運営・ 通常の審議経過		1		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
等に係る計画/実施/評価に関する事項	С	評	価	■委員会は、シニアサマーカレッジ開催に係る審議を遺漏なく行い、大学学則第55条 及び短期大学部学則第51条を事業として体現させた。	■達 成 □前 進 □維 持 □停 滞
		Ţ		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	□後 退
	A	改		■引き続き、本学が社会貢献を果たせるよう、シニアサマーカレッジの開催を前提と 的・効果的な委員会運営を進める。	した効率
		〈年度 .通し		次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■特になし。	
		[事案 		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
		[事案		※る規程上の根拠 ⇒ 決裁・意見・委託・上程の別	
委員会が取り 扱った項目[事					
案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	-7.5		-1		
		[事案 		決裁・意見・委託・上程の別	
		[事案 [事案		決裁・意見・委託・上程の別	

	整理	番号	正屋	大学・大学	· 毎 抽 十・	学立	委	員会名称						教職課程	委員会
	大短委-	2018-08		八子・八子	·应朔八于即		担:	当部局等	部局等	教務音	ß	課	教務調	Ŗ	
	委員会	会設置の	根拠(規程等)	西南女	学院大	大学・西	i南女学院大学	短期大学	部会静	蟻規則第	39条、	教職調	果程委員会規程	
I			1011	委員長	新谷	恭明		副委員县	Ž	塚本	美紀		阿南	寿美子	構成員数
I	構	成			伊藤	直子		一期﨑 直美		杉谷	修一		西丸	月美	神 及貝奴
I	冊	13%	1	委 員	手嶋	英津子	<u>-</u>	藤川 信幸							9
l															J

1. 教職課程の編成、講義及び実習に関する事項

委員会の役割に 関する事項(概 要)				版、講義及の美質 1程に関する事項	∟関りの事項						
			項目	[事案]	当	該項目[事案]の概要)	裁・意見	· 委託 ·	上程の別
年度重点項目					再課程認定に関	する書類の記載	<u>-</u> 載内容についての				
[事案]に関する 事項	平成31年	手度から	の教職	課程再課程認定について	再課程認定に	伴う学則・原	覆修規程改正/	につい 上程	l	教授会	・大学評議会
			項目	 [事案]	当	亥項目[事案		決	裁・意見	• 委託 •	上程の別
年度重点項目 [事案]以外に委	教員採	用試願			教員採用試験			意見			
員会が取り扱っ た項目[事案]に 関する事項											
121 7 W T 12											
	項目][事案	[]	平成31年度からの教職課程	上 民再課程認定について	決裁・意見	・委託・上程	星の別	上程	教授会	· 大学評議会
	Р	計	画	当該項目[事案]に。 平成31年4月1日か ついて共通認識し、 変更、新設)を行	ら施行される。 、再課程認定に	教育職員免討	許法及び教育	職員免許法	:施行規則	に伴う	
	D	実		計画(P)を達成する 教職課程の改正に 課との協働により、	ついては、文部	7科学省での	事前相談を受	をけて、教:	職課程委員		過程の 評価 ■順 □遅 □未実施
年度重点項目		↓				1					結果の
「事案」の計画/				実施(D)によって記							評価
実施/評価に関 する事項	С	評		出来上がった教職 がなされ、了承。 学省から再課程の 替えを無事に終了	正式に教育課程 認定通知が届い	との改正が認	りめられた。ま	ミた、1月	25目付	で文部和	中 口前 進 一 一 一 進 一 一 一 一 一 神 一 一 神 一 神 一 一 神 一 一 神 一 一 神 一 一 神 一 一 神
		Ţ				↓					口後 退
	Α	改		評価(C)をふまえて 大学、大学短期大学 画を立て、進めてい	学部ともに「留					更の解決	に向けて計
	为 男	欠年度 見通し		次年度における計	画(P)の修正	・変更・廃	止の見通し				

	項目][事	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
				<u> </u>	\B 1 D =
		1		↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施		□順 調 □遅 延 □未実施
		ļ		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
	С	評	価	大心(D)により(日間(F)は足成・制定したが、/ 足成・削定していない。在田は何か、	□達 成 □前 進 □維 持
		1			□停 滞 □後 退
		•		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	A	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
手度重点項目 [事案]の計画/	次年度 見通し				
実施/評価に関	項目][事	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
する事項				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		ļ		1	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		□順 調 □遅 延 □未実施
		Ţ		□ tr / 5 \	結果の 評価
				実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	口達 成
	С	評	価		□前 進 □維 持 □停 滞
		Ţ		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	口後 退
				計価(し)をかまえて、次年後に11万へさこと / 11万へさではないこと	
	Α	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
) 5	欠年度 見通し			

				委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にした	いのか
	_			■教員採用試験の状況を把握する。	
	Р	計	曲		
		↓		↓	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
		_		■各学科からの教員採用試験の状況を報告する。	■順 調
	D	実	施	■2018年度より「教員採用試験突破講座」を実施している。 ■北九州市教育委員会教職員課の選考試験担当者による「教員採用に関する説明会」	□遅 延
				を開催した。	口未実施
		Ţ		Ţ	結果の
委員会の運営・		·		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価
通常の審議経過				■今年度も何名かの教員採用者が確認されている。「教員採用試験突破講座」や「教	□達 成
等に係る計画/	С	評	価		■前 進
実施/評価に関する事項					□維 持 □停 滞
7 0 平久		1		ı	口後 退
		•		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
				■2019年度も引き続き「教員採用試験突破講座」を実施し、教員採用試験の合格率の	UPを目指
	Α	3 47	*	す。 「松島校田に関チャギョへ、ナマ」、よとかり松野に並えたいしいこ立場点「に転げ	2 0010
	A	ųχ	=	■「教員採用に関する説明会」を通し、さらなる教職に就きたいという意識向上に繋け 年度については、一般教員の採用説明に加えて、養護教諭、栄養教諭の採用についても	る。2019 説明をし
				てもらうことにしている。	
				■教員採用試験にも関わっていた非常勤講師から申し出があり、夏に二次試験対策の模	擬面接、
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
		年度			
	見	通し			
		事第		再課程認定について 決裁・意見・委託・上程の別 決裁 ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・	
				系る規程上の根拠	- 本・エ・バナ
				ご部科学省より教職課程における再課程認定通知が届いた。大学、短期大学部ともに留意留意事項を指定された期間内に是正できるように進めていきたい。	争場かめ
	072.	\ / E	2150	IN THE CANCENTAL TO SEE STORY OF CASE	
		[事第		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	₹]に依	系る規程上の根拠	
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
委員会が取り 扱った項目[事	項目	[事案	€]に信	系る規程上の根拠	
案]のうち特に					
状況等の記載を					
要する事項					
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
				系る規程上の根拠	
	項日	[事案	≅]	決裁・意見・委託・上程の別	
				系る規程上の根拠	
	7,4	_ , , , ,	//		

数四平口				未吕	夕托	十学と	L 1/181	フェハニ	ラスメン	上仕止	· 分字		壬巳人
整理番号		大学・フ	大学短期大学部										委員会
大短委-2018-09		(1000 66)	51.00	担当部局		部局等			課	学生調			
委員会設置の				ンパス・ハラ					る規程」				
		委員長	金山 正子	•	副委員	長	神崎	明坤		篠木	賢一		構成員数
構成			金山 正子	高口	恵美		青木	るみ子		神崎	明坤		
117 194	;	委 員	篠木 賢一	横溝	紳一郎		三宅	利佳					7
													,
委員会の役割に 関する事項(概 要)	するホ	目談及び	ハラスメントの 問題解決のため スメントに関す	の手続きに関	する事項								
			項目[事案]		当	該項目[事案]の	概要		決裁	・意見	• 委託 •	上程の別
年度重点項目 [事案]に関する	ハラン	スメント	防止のための研	修 ハラ	スメント	防止セミ	ナーの	実施		決裁			
事項													
		I	項目[事案]		当	該項目[平	事案]の)概要		 決裁	・意見	・委託・	上程の別
年度重点項目				実施 相談	・問題解	決に係る	手続き	等の理	解促進	決裁			
[事案]以外に委 員会が取り扱っ	/ \ / /		啓発活動		リーフレ					決裁		W E	
た項目[事案]に 関する事項	苦情日	甲し立て	(第2018-1号)	アカ	デミック	・ハラス	メント	•		意見		学長	
因りの事項													
	項	目[事案]	ハラスメ	ント防止研修	の実施	決裁・	意見・	委託・_	上程の別	茫	央裁		
				事案]によって									to military and the second
	P	計证	■キャンバ 画 る。	パスハラスメン	/ト防止1	アミナー	を開催	して、	教職員の	ハフシ	ベメント	・防止の意	意識を高め
		↓					ļ						過程の
				達成するため							⊥n ⇒k / ⇒	E / → /m	評価
	D	実力	■ 削年度にえ、2018年	エ引き続き、□ ■9月13日に学	ム島天字。 生指導の	より横口)なかで起	美采子 湿こり ^り	ー教授(やすいノ	ハフス) \ラスメ	メントニントの	相談至: 事例検	長)を型 討を焦点	■順 調
			に、グルー	・プ形式でセミ	ナーを開	目催した。	■出席	席率向上	このため、	学内	LAN掲	出のほか	口遅 延口未実施
左帝孟占百日		ļ	大子評議会	と運営会議で	後 数凹向	別を図っ) /こ。 ↓						結果の
年度重点項目 [事案]の計画/				よって計画(F									評価
実施/評価に関 する事項	c	評(·護の実習と重 2017年度より									— ~
, 0 1 X		H	は、ハラス	メントの事例	を通して								口維 持
		1	て一定の評	価が認められ	た。		1						口停 滞口後 退
		*	評価(C)を	ふまえて、次	年度に行	うべきこ	<u>+</u> کا کا کا	行うべ	きではな	こいこと	<u> </u>		- i - C
	A	改善	<mark>善</mark> る向上を図	の教員が参加 る。■過去に て参加を働き	被害を訴	えられた	こ経験を						
			次年度にお	ける計画(P)の修正	,亦亩	広し	か日海し					
				ハラスメント									

	項目][事	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		Ţ		↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施		□順 調 □遅 延 □未実施
		Ţ		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
	С	評	価		□達 成 □前 進 □件 滞
		Ţ			口後 退
				評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	Α	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
年度重点項目 [事案]の計画/	<u>ک</u>	文年度 見通し			
実施/評価に関 する事項	項目][事	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
7 の事項				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		↓		1	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		□順 調□遅 延□未実施
		Ţ			結果の 評価
	С	評	価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	□達 成 □前 進 □維 持
					□停滞 □後退
		*		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	~ ~
	A	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
) 5	欠年度 見通し			

	P i	計画	委員会の運営・通常本学の構成員が個人 キャンパス・ハラス 題が生じた場合、通	人として尊重さ スメントの発生	れ、快適な気を防止すると	学習、教育、研	究及び就労環境	色の確保を図	図るため、
	D ;	実施	計画(P)を達成する ■キャンパス・ハラ UNIPA及び学内掲 画・実施し、キャン	ラスメント防止 示板に掲出し、	- - 啓発のための 相談窓口の	カリーフレット 周知を図った。	、を作成し、相記 ■教職員対象の	の研修を企	過程の 評価 ■順 調 □未実施
委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	C i	評価	実施(D)によって記 学生による苦情申立 加え、キャンパス・ 論を学長に報告・	なてが1件発生 ハラスメント	したため、委	員会権限で環境	竟改善措置を講	じたことに	□前 進 一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一一
	A i	改善	評価(C)をふまえて ■学生・教職員に対しては、問題解決しては、のに努力する。	付してハラスメ	ントに関する	る啓発活動を継	- 経続し、特に学生		
	次 ⁴ 見道		次年度における計画						
委員会が取 会が取 会項目[事 で うち記載 を 事項	■キャ キのるそ、項目 [項目 [項目 [項目 [事案]に パ パ 原 り に り に り に り に り に り に り に り に り に り	書情申し立て(第 系る規程上の根拠 ラスメント防止・対策 ので、調査の応策を学長と で、したたため、福岡 系の規としたたか。 系る規程上の根拠 系る規程上の根拠 系る規程上の根拠	大学キャンパ 策委員会は、** をもとに下した こ勧告した。■	ス・ハラスメス・ハラスメス・ハラスメス・ハラスメス・	、ラスメントするように、学に、学に、学のでは、 ででは、学のでは、学のでは、学のでは、学のでは、 ででは、世界では、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・上程のでは、 ・一、本語・「一、一、本語・「一、一、本語・「一、本」」」 「本:「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本語・「一、本」	対策に関する規定を受ける場合を表してあるともに、本学と指導に対してあっせんの別	程ほか 当事者及で しての措置 は申し立てを	置が必要で とし、さら
	項目[系る規程上の根拠		決裁・意見	・委託・上程 <i>0</i>)別		

整理番号				委員会名称	国際交流	ń				委員会
大短委-2018-10		大学・大学	短期大学部——	担当部局等	部局等		課	学生課		224
委員会設置の		規程等)	「国際交流委員		HI-1-3 13	7	HAIN	7 = 2,51		
27/21/2			横溝 紳一郎	副委員:	Ē.			末成 妙子		
	•	<u> </u>	溝部 昌子	古川敬康	_	田路 千尋		マルコム・ス	ロンソン	構成員数
構成	á	委員	劉明	末成 妙子		横溝 紳一!	- - - -	三宅 利佳		
	-	女 只	か) ウ)	水 灰 易		1英1冉 //中 1	7 3	二七 州庄		8
委員会の役割に 関する事項(概 要)				毎外の大学等との国 質、その他国際交流				国人留学生の受	け入れに	2関する事
在度重占項目	2) (1)	項目	[事案]			[案]の概要		決裁・意見	・委託・.	上程の別
年度重点項目 [事案]に関する)海外危機管 針に対する学		危機管理経費 成績基準の新	- *-	変更		決裁 決裁		
事項	笛子名	日に刈りる子	州並似兄		汉			次教		
		項目	[事案]	当	亥項目[哥	事案]の概要		決裁・意見	• 委託•_	上程の別
年度重点項目				引率教員の負	担軽減の	ための見直	L			
[事案]以外に委員会が取り扱っ	土丁巾		食の機会拡充	人文学部主催				A		
た項目[事案]に 関する事項			で換留学の実施 -大学からの受力	受入れ各1名 入れ TEFL履修		1名		上程	教授会	
(男りの事項	ソイン	7 1 1 7 7 -	八子がりの文/	(AU IEFL/復修)	土3石					
	項	目[事案]	学生の海ダ	卜 危機管理対策	決裁・対	意見・委託・	上程の別	決裁		
	Р	計画	■近年、人文学 参加者につい]によって、対象(学部を中心に留学希 ては、指定の海外留 を義務づけ、その暫	望者が増 学保険	曽加傾向にあ (付帯海学)	ることから	ら、学長が許可	「したプロ	
	D	実施	■過去3年間 221,657円、20 文化学科と協詞	戏するために「誰が における当該経費の 18年度:488,104円 養のうえ在学生に配 て、会計課窓口で納)推移を) ■ 適月 慮。 ■ 章	- 確認。(201 月時期と施行 学生サービス	6年度:1 日につい の観点か	32,093円、201 ては、英語学程	斗と観光	過程の 評価 ■順調 □未実施
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	С	評価	■この取扱い 校・認定校等 年度入学者よ	oて計画(P)は達成 は、2019年4月1 への個人留学、英語 り適用する。■業者 身体的・経済的負担	日より開 学科留学 への料金	始。但し、 学制度、以上	中国協定 : 3 プログ	交への交換留等 ラムについて <i>[</i>	学、協定 は、2019	結評 ■ 達前維停後 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □
	Α	改善	■参加者及び6 サポートデスタ ビスの有用性。 パスライフ及び	まえて、次年度に行 呆護者向けに、渡航 ク等の各種サービス と必要性に対する理 バ公式ウェブサイト	期間に応 の利用力 解促進を にて周知	ぶじた自己負 が法に関する ご図る。■そ し。	担額の目録 案内文書を の他、新 ⁴	安を提示するほ を配付し、危機	管理サオ	ト危機管理 ペートサー
		欠年度 見通し	「海外研修中	る計画(P) の修正 や留学中に引率教 具体的なガイドラ	や学生に	こアクシデン	ノトが生じ			

	項目	[事3	室]	留学者に対する学納金減免 決裁・意見・委託・上程の別 決裁	
	7(1	1 1 7 7	173	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画	■留学志向の高まりとともに、「学生海外留学規程」による留学を希望する者が多様め、学納金減免の適用要件を設けて、相応の学力を有する留学者に対して経済的支援をい。	
	D	↓	施	↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■過去5年間の留学者27名について、留学の前年度の成績を確認。(GPA平均値: 3.43、3.0未満は27名中4名)■学納金の減免措置は、留学を許可された者のうち、留	過程の 評価 ■順 調
	2	1	ne.	学の前年度GPA3.0以上の者に対し適用することに決定。■適用時期と施行日については、英語学科と観光文化学科と協議のうえ在学生に配慮。 ↓	□遅 延 □未実施 結果の 評価
	С	評	価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■この取扱いは、2019年4月1日より開始し、2019年度入学者より適用する。■学納 金減免の適用要件を設けたことにより、真に留学を希望する学生の学習意欲が向上 し、その結果として留学による教育効果も高まることが期待される。	■達 成 □ 単
		Ţ		↓	口後 退
	Α	改	善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■新年度オリエンテーション、キャンパスライフ及び公式ウェブサイトにて周知する。	
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
年度重点項目 [事案]の計画/	が 見	マ年度 1通し			
実施/評価に関 する事項	項目	[事3	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
りの事項				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		1		↓	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		□順 調 □遅 延 □未実施
		Ţ		↓ * * * * * * * * * *	結果の 評価
	С	評	価	大心(と)によりという(ア)は足が、前足とにより、足が、前足としている(ア)により	□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞
		↓		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	□後 退
	A	改	香	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	- ·	7 /E #		文(元)。 Oli a (i) Olige 女人 Red Olige O	
	5 5	マ年度 見通し			

	Р	計	画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたい ■大学・短期大学部「将来計画2016~2018」に掲げる到達目標を達成し、すべての学生がに海外体験の機会を得ることができるようにしたい。	
					R 10 0
		4			過程の 評価
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	a平1Ⅲ
		_		■保健福祉学部と短期大学部において、海外研修プログラムの企画・実施の可否を協	順調
	D	夷	施	成する。 二八人 子的が天旭する時/下のドグークノムに匿子的の子工と参加してること]遅 延
]未実施
A - I W		Ţ			結果の
委員会の運営・				実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価
通常の審議経過				■英語学科が実施する「春期海外英語研修プログラム@ニュージーランド」への参加 ┏	達成
等に係る計画/	С	評	価		前進
実施/評価に関 する事項]維持
りる争項				る学生であれば、学科を問わず参加可能との回答が得られた。	停滞
		1]後 退
		*		<u> </u>	
				評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	7
				■学士課程教育に大学の国際化が避けられない今、人材の確保とシステムの構築が望まれ	る。
	Α	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	•	7年 年			
	ク E	マ年度 見通し			
	اح				
	項目	[事第	₹]	海外研修における引率方針 決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	「事室	を11に存	系る規程上の根拠 「国際交流委員会規程」第3条	
				017年度第3回国際交流委員会(2018年1月24日開催)において、海外研修の全行程を通じ	で引家
				8011年度第3回国际文流委員会(2010年1772年17届12年)において、海戸所書の至り程を通じ 見直しが求められていた件について、人文学部両学科との調整を経て「国際交流委員会規程	
				員会での審議に先立ち、学長の見解を伺ったが認められなかったため廃案となった。	L. 9/11.
	,,,,				
	T百日	[事案	≿]	全学的な海外体験の機会拡充	
				系る規程上の根拠	
				全生にも大学教育の中で海外体験の機会を提供するためのより現実的な方策として、人文学	
	科にお	117 (・全字のポー	学的に同学部主催の正課外プログラムの参加者を募集することについて意見を徴した。その)結果、
	央韶子	・科の:	2 / 1	グラムについては肯定的な回答が得られた一方、観光文化学科では了承が得られなかった	• 0
チョムじゅい	項目	1[事第	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
委員会が取り 扱った項目[事	項目	[事案	[2] に保	系る規程上の根拠	
扱った頃日 [争] 案]のうち特に					
状況等の記載を					
要する事項					
	項目	[事第	[]	決裁・意見・委託・上程の別	
				系る規程上の根拠	
	- 7.	1177	מ – ו נא		
	古日	1 「 古 学	⇒ 1	油井・辛旦・禾託・上租の 剛	
		事第		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	11事第	€]に係	系る規程上の根拠	

整理番号		正层	七学.	大学短期大学部	委	員会名称	学生募缜	Ę			委員会
大短委-2018	3–11		八子	八十位朔八十司	担当部局等		部局等	入試部	課	入試課	
委員会設置	置の村	根拠(規程等	会議規則第	539条、	学生募集委員	会規程				
		į	委員長	浅野嘉延	浅野嘉延 副委員县		Ę	友原嘉彦		笠修彰	構成員数
構成	-1:			布花原明子	-	吉原悦子		荒木剛		通山久仁子	押 ,从 貝 奴
作 八	'	į	委員	岡部明仁		天本理恵	塚本美紀	塚本美紀		馬本鈴子	15
				須藤秀夫		古賀玉緒		東彩子		入試課長	19
■学生募集に関する事項について審議する。 季員会の役割 に											

関する事項(概 要) 項目[事案] 当該項目[事案]の概要 決裁・意見・委託・上程の別 年度重点項目 入試説明会 高等学校教員対象の大学及び入試概要説明 決済 [事案]に関する 高校訪問 高校進路指導部訪問による情報提供及び収集決済 事項 ___ オープンキャンパス(OC) 高校生、保護者向けの大学紹介・授業体験 決済 項目[事案] 当該項目[事案]の概要 決裁・意見・委託・上程の別 年度重点項目 リアル授業体験ウィークの実施 高校生による実際の大学講義の受講 [事案]以外に委 模擬講義への出講 高等学校に出向く形式の大学講義の実施 員会が取り扱っ 学科ブログの運営 公式ウェブサイトにリンクするブログの更新 た項目[事案]に 関する事項 学生スタッフの推薦 OCで協力してもらう学生スタッフの選出 学科独自の募集企画 学科特性を重視した募集活動の実施 項目[事案] 入試説明会 決裁・意見・委託・上程の別 決済 当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか ■高等学校教員を対象に大学概要と次年度入試概要の説明を行ない、本学の教育に興味関心を もっていただくことで入学試験志願者増及び入学者確保につなげたい。 Р 計 画 1 過程の 評価 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■6月中旬から下旬にかけ、北九州市(本学)、福岡市、熊本市、大分市、宮崎市、 鹿児島市、山口市の7会場で開催した。 ■各会場に学生募集委員、入試課・就職課職員が出向き、教育内容と入試概要をパ ワーポイントと印刷物を用いて説明、また地区別の進路・就職状況を報告した。その 後、質疑応答を行った。会場により当該地域で就職している卒業生をゲストスピー ■順 D 旃 カーとして招いた。 口遅 延 ■本学会場では学内施設見学希望の有無を事前に聴取し、説明会終了後に希望する教 □未実施 員を主な学内施設に案内した。 結果の 1 年度重点項目 評価 [事案]の計画/ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 実施/評価に関 ■参加高校数は64校で前年度に比べ2校減少した。 する事項 ■参加予定者が1校だった宮崎地区は高校訪問に切り替え、市内7校で入試説明を行っ 口達 成 た。 C 進 口前 ■参加高校からの入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が13名(4.1%)減少、大学 ■維 短期大学部は11名(17.5%)増加し、大学、大学短期大学部合計で2名(0.5%)減少 口停 滞 となった。 退 □後 1 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと

A 改善	■高校生、高校教員が求める情報を精査し、限られた時間内で情報提供する工夫をする。 ■高校教員から生徒に的確に本学の情報が伝わるような配布物(入試のポイントが明確、目立 つ、見やすい、理解しやすい)を提供する。 ■卒業生ゲストスピーカーの招聘は、本学の教育の成果や社会につながる卒業後の状況を高校教 員に伝える上で有効な手段と考えられる。また、就職状況報告も好評で、いずれもアンケート結 果からも良い評価が得られているため次年度も継続する。
次年度 見通し	次年度における計画 (P) の修正・変更・廃止の見通し ■入学試験志願者増及び入学者確保を目指すために上記改善案を検討・実施し、入試説明会を行う。

	項目[事案]	高校訪問	決裁・意見・委託・上	:程の別 決済	
	P計画	当該項目[事案]によって、対象(■高等学校進路指導部を訪問し、 情報を収集するなど、本学と高校 確保をはかりたい。	本学の入試・募集に関	する情報を提供すると	
	1	=1/=> + \+	↓ - 5/7.4 - 5 13 0 1 3 ·		過程の
	D 実施	計画(P)を達成するために「誰が ■学生募集委員を主とした学科教としてこれを中心に訪問した。 ■3月には短期大学部保育科教員 ■本学からは大学概要及び入試制進路状況を報告した。また進学支高校側からは進学動向等の情報をた。 ■教職員とは別に、在学生による科・保育科在学生自身が出身校のた。	放員と入試課職員が志願 全員が北九州市内を中心 程要を説明し、当該高校 で援に資する本学の取り と収集し、本学への志願 の母校訪問を拡大した。	「者の多い近隣の50校を いに訪問を行った。 氏出身者の在学状況・歴 組みなどの情報を提供 を薦めていただくよう 看護学科・栄養学科・	卒業後の はした。 □順 調 う依頼し ■遅 延 □未実施 ・英語学
	Ţ		1	V. W	結果の
	C 評価	実施(D)によって計画(P)は達成 ■重点校からの入学試験志願者数期大学部は12名(17.9%)増加なった。 ■入試課の訪問スタッフの不足に ■全体として高校訪問の方法、時	は前年度に比べ、大学だし、大学、大学、大学年期大学 より予定した訪問数を達	が17名(4.0%)減少、 学合計で5名(1.0%) 達成できなかった。	大学短
	1	== (a) + > + = - + + + +	↓	+	
	A 改善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■次年度も重点校を設定し、これらの高校を中心に訪問を行う。 ■高校進路指導部教員と、より良好な関係を築くために高校訪問担当者を固定する。また、高校の特性によって訪問の時期・回数など検討する。			
		次年度における計画(P)の修正			
	次年度 見通し	■高校訪問の実施方策を上記改善	案に従って行なう。		
	項目[事案]	オープンキャンパス(OC)	決裁・意見・委託・上	:程の別 決済	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	P計画	当該項目[事案]によって、対象(■本学での学生生活体験(模擬授本学の様子を高校生に理解しても ■近年、特に進学意思決定に影響	業、在学生との交流や らい、入学試験志願者	学食利用)を通して、 を増やし入学者を確保	したい。
	↓	計画(P)を達成するために「誰が	<mark>↓</mark> 」「何を」「どのよう」	」に行ったか	過程の 評価
		. = . =			

D	実	施	■7月、8月に全3回、全学的に開催した。学科教員・学生、入試部・学生部職員が高校生に直接、大学の特長をアピールした。 ■会場までの交通に不安がある生徒でも安心して参加できるよう、無料送迎バスを運行した。今年は2駅追加し、JR8駅(小倉、黒崎、折尾、博多、新宮中央、大分、中津、下関)から利用いただいた。 ■高校生に同伴する保護者を対象にしたリーフレットを作成し、保護者説明会も行なった。 ■参加者増加に向け、9月から8月に開催日を変更した。また、これまでに入試課と接触のあった高校生にダイレクトメールを送付した。 ■○Cの開催に加え、高校生が本学の通常授業を体験できるリアル授業体験ウィークを7月に実施した。 ■3月には大学短期大学部保育科単独で〇Cを開催し、模擬授業及び在学生・卒業生との懇談の時間を設けた。	
	1			結果の 評価
С	評	価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■参加者数は1,003名で、前年度に比べ39名(4.0%)増加した。また次年度の志願に つながる低学年(1・2年生)の参加者の割合も例年のように多かった。 ■参加者のうち588名(58.6%)が無料送迎バスの利用者であった。 ■リアル授業体験ウィークの参加者は昨年に比べ減少したが、21名の参加があった。 ■入学試験志願者数は前年度に比べ、大学が99名(10.3%)減少したが、大学短期大学部は1名(0.9%)増加した。大学、大学短期大学部合計では98名(9.2%)の減少となった。 ■保護者向け説明会には53名の保護者が参加した。学費や学生生活支援、卒業後の進路支援について説明を行い、理解をいただいた。 ■3月開催の大学短期大学部保育科OCには高校生25名の参加者があった。	□達 成進 一
	1		Į.	
A	改	善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■リピーターへの配慮に加え、低学年の参加者に対する学科の模擬授業の内容や方法なする。 ■無料バス送迎、保護者向けの説明会は、次年度も継続し実施する。 ■参加者の増員を目指し、開催日を検討したい。 ■参加者アンケートの回収方法に工夫が必要である。	どを工夫
	欠年度 見通し		次年度における計画 (P) の修正・変更・廃止の見通し ■上記改善案に従い○Cを実施する。また、学生募集の新たな取り組みとして昨年度かき実施したリアル授業体験ウィークについても、より参加者を増やせるような改善策をる。	

	Р	計	画	委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にした ■4月~6月の各月1回、合計3回の委員会を開催し、学生募集方策等の審議・検討を が、各回で提出される議題が多い。 ■議題の提示後、各学科で十分な時間をかけて審議・検討を行ない、効果的な募集方策 たい。	としている
		Ţ			過程の
	D	実	施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■学科での審議時間を確保できるよう、1か月の期間をおいて次回委員会を開催している。 ■審議・検討の日程が不足すると思われる議題については、前年度3月に学科長に事前提示するものもある。	評価 ■順 調 □遅 延 □未実施
委員会の運営・ 通常の審議経過 等に係る計画/		1		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■学科で審議・検討された結果は、次回委員会の開催までに入試課で取り纏め、会議	結果の 評価 ■達 成
等に係る計画/ 実施/評価に関 する事項	С	評	価	資料として作成している。よって、学科内で審議・検討する時間・日程は確保できていると考える。	□前 進□維持□停滞
		1		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	□後 退

			06 16 - 1 - 2 4 - 3		
	A 改善	■学科で十分に番詞	義・検討が行え	とるよう、議題の整理や事前提示等について権	食討したい。
				E・ 変更・廃止の見通し 試計した方策に従い、学生募集活動を行なう。	
	次年度	■ヨ吸午及の子生を	5年女只云 (1)	R的した力界に促い、 子王券来伯勤を行なり。	
	見通し				
	項目[事案]	学科独自の類	当	決裁・意見・委託・上程の別	
		3 11 42 17 · 3	7 7 L		
				スグルエル 2 木 パンフレットだけでは紹介しきれない取り	組みがある学科では
		アレットを作製し、			~ ##
	■字科リーフレッることができる。	, トを作製しない字	料では、人試品	部と相談のうえ、作製費用の一部を学科独自(り募集企画に充当す
	■在学生自身によ		学科教員による	る高校生向け英検2級取得講座など、各学科の	の教育内容を活かし
	た独自の取り組み ■ゼミ活動を抽場		ハス学利まなり)、在学生の教育の成果を発表する場として、	版 N 組 ひ 保 泡 を か
		によって学外に紹介		7、任于王の教育の成本を光衣する物として、	以り組みが化る五
	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係	系る規程上の根拠		•	
委員会が取り 扱った項目[事					
案]のうち特に	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別	
状況等の記載を 要する事項	項目[事案]に係	系る規程上の根拠			
X / U + -X					
	項目[事案]			決裁・意見・委託・上程の別	
	項目[事案]に係	系る規程上の根拠			
	-ED(+0)	Т		\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	
	項目[事案]	 系る規程上の根拠		決裁・意見・委託・上程の別	
		ボるが住工の依拠			

整理番号	記屋	大学・大学	· 佑 期 十 学 郊	委	員会名称	倫理審査	K 1				委員会
大短委-2018-13	別馮	八子・八子	应别八子印一	担	当部局等	部局等	事務部	課	庶務課		
委員会設置の	根拠((規程等)	研究取扱規則	第4条							
	,	委員長	谷川弘治		副委員	Ę.	馬本鈴子		藤田稔子		構成員数
構成			谷川弘治		笹月桃子		山根正夫		田川辰也		伸 戍貝奴
件 八	;	委 員	馬本鈴子		藤田稔子		植田浩司		菊田彰夫		9
			山崎工								9
禾呂仝の 犯割に	③南 う に 関 に に る 。	り他倫理審査 学院大学及で が中心とな する倫理指金 車する学会な	Eに関する事項 び西南女学院 さって行う人間 け、人を対象と び定める倫理規	につい 大学短 引を直接 する 見程等	ヽて審議する。 互期大学部の教 受対象とした研 医学系研究に関 がある場合、両	研究の実践の実践の実践の関係である。 またい はっこう はい	E施計画の適否 手、教育支援 「研究」とい 理指針に適合し の倫理規程等	に関し 戦員又は	②研究倫理教 では、同規程第 事務職員(以 が、ヒトゲノム か否かを審査す しているかを検 没稿が見込まれ	3条に基 下・遺伝 で で き い る は い こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ こ	基づき、西 戦員」と研究 経済が研究 とができ
左左手上在口			[事案]		当	该項目[專	事案]の概要		決裁・意見	• 委託 • .	上程の別
年度重点項目[事案]に関する		見則等の適正 帝理の確立	Eな運用		研究取扱規則。 研究倫理講習:			実施			
事項	101 JL1F	田垤の惟五			如九冊垤再百:	云り用惟					
			[事案]				[[本本] 本本 本本 本本 本本 本本 本本 本本		決裁・意見		上程の別
年度重点項目 [事案]以外に委	研究(の実施計画の	適否の審議		人間を直接対象	象とした	研究の適切性	の審査	報告	学長	
員会が取り扱っ た項目[事案]に											
関する事項											
	⊤ ⊼	 目[事案]	中如相用	lkk or is	<u></u>	24.44.	 意見・委託・_				
	P	計画	当該項目[事 ■新しい倫理 れる情報及び に対する倫理	案]によ !指針は :試料の !審査委	、って、対象(こ基づく 「研究	何を・誰 取扱規則 るガイト 取扱(申	を を どのよ 川」及び「倫理 ドライン」及ひ 「し合わせ)」	うな状態 [審査委員 「人を対 を適正に	 集にしたいのか 員会規程」並び 対象とする幅広 ご運用したい。 したい。	に「研究	
	D	実施	■委員会にお 化した。 ■人文社会科	ける智 学系研		、内部 が で 考え ご	規則等及び各利 方を整理し『ノ	狙いとするこ。 会科学系研究の		過程の 評価 ■順 調□ □未実施	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	С	↓ 評価 ↓	■新しい研究 れた。 ■内部規則等 まった。 ■人文社会科	注倫理(4 学系の で で で で で 表示	こ沿った本学に 式による文書処 ff究の倫理審査	命理審査体制に とおして教職員 ジラインが作成	していない理由 則上から運用を 倫理に対するま できたことで、	が担保さ	結果の □ 童前維 □ 一 □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ □ ② □ □ ② □ □ ② □ □ ② □		
	Α	改善善	■引き続き、 員会運営を行	研究活 つてV		倫理の夏	見なる徹底と 研	f究活動(ないこと の促進が進むよ	 :う留意し	ンながら委 -

次年度 見通し ■引き続き、倫理審査委員会における審査をとおして、新しい倫理指針に基づいた「研究取扱規則」や「研究に用いられる情報および試料の保存等に関するガイドライン」及び「人を対象とする幅広い分野の研究計画に対する倫理審査委員会における取扱(申し合わせ)」、「人文・社会科学系研究の研究倫理と倫理審査に関する倫理審査委員会の考え方」に基づく研究支援を実施していく。

	百	目[事	<u></u>	研究倫理の確立	決裁・意見・委託・	ト稈の別	
		ц (т .	~ J	当該項目[事案]によって、対象((D t)
	Р	計	画	■西南女学院大学及び西南女学院 び特任教授を含む。)、助手、教 とした研究が適切に実施されるた する理解を深める。	大学短期大学部(以 育支援職員又は事務	下「本学」という。 「職員が中心となって)の教員(嘱託教授及 に行う、人間を直接対象
	D	↓ 実 ·	施	計画(P)を達成するために「誰が ■2018年9月20日「第1回研究倫理 指針」)。 ■2018年11月29日「第2回研究倫理」)。 ■学生のうち2年以上は前年度まで 次教育』で研究倫理について学ぶ	講習会」を開催(「ノ	人を対象とする医学 (「人文・社会科学 を終えていた。新入	学系の研究倫 □遅 延 生には『初年
	С	↓ 評 ↓	価	実施(D)によって計画(P)は達成 講習会に出席できなかった教員に 会を録音した音声資料を用いて代 率は100%となった。	対してe-learningに	こよる研究倫理講習の	の受講、講習 口達 成
	Α	改	善	評価(C)をふまえて、次年度に行 ■倫理指針の改定などの動向と本 どして、引き続き研究倫理に対す る研究活動の活性化を目指したい ■人文社会科学系研究の研究倫理 を行う。	学教員のニーズを路 る理解と指針等に基 。	まえて講習会を開作 づく行動の促進を図	ることで、本学におけ
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項		次年度 見通し	Ę	次年度における計画 (P) の修正 ■新任教員には、オリエンテーシ ■人文社会学系の研究倫理につい	ョン時に研究倫理パ	ンフレットを配付す	
	項	目[事	案]		決裁・意見・委託・	・上程の別	
				L 当該項目[事案]によって、対象(<u>L</u> 何を・誰を)をどの	 ような状態にしたい	·のか
	Р	計	画			o y a viene o izv	<i>57.</i> 2
		Ţ		計画(P)を達成するために「誰が	↓ 」「何を」「どのよ	う」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施	III (I') E ZEM / G/CG/IC GILLO		<i>y</i>] 121, <i>y</i> , <i>z</i> , <i>z</i>	口順調口遅延
		1		実施(D)によって計画(P)は達成	↓ ・前進したか / 達	成・前進していない	結果の 理由は何か 評価
	С	評	価				□達 成 □前 進 □維 持 □停 滞 □後 退
		1		評価(C)をふまえて、次年度に行	うべきこと / 行う	べきではないこと	

2	A 改 著	
	次年度 見通し	次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し

				委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのよう	な状態にしたいのか
				■規程等に基づき研究の実施計画の適否を審査し、当該研究の各種指針等	
	Р	計	画		
		Ţ			過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	_			■定例の倫理審査委員会は月1回開催、必要に応じて迅速審査の委員会	
	D	実	施	■申請受付後,委員会で本審査・迅速審査の振り分け,委員の意見のと 請者への発信,その後本審査あるいは迅速審査を実施する流れが定着し	JACWET - 77
				及び迅速審査に際しては、申請者に同席を求め必要な質疑及び助言を行っ	/Co = / H = H = H
				人の意思をは、「いる」、「いる」、「いる」、「いる」、「いる」、「いる」、「いる」、「いる」	
委員会の運営・		1		中佐(□)によって計画(□)は法代・益進したか、ノ 法代・益進していた」	結果の い理由は何か 評価
通常の審議経過				実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していなし ■委員会による審査結果は学長に報告している。■申請書提出期限等	
等に係る計画/	c	評	価	■安貝云による審査結末は子衣に報言している。■甲請書徒出期限等の み、遅れることは少なくなってきた。■審査結果に基づく修正のため継	
実施/評価に関	l	п	limi	ケースが増えてきたが、研究倫理への意識付けには必要な手続きと思わ	
する事項				書類の作成方法が分かりにくいのか、研究参加者には分かりにくい書	
		Ţ		た → が新日 ケア ケ	口後 退
		·		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
				■引き続き規程及び倫理指針にもとづく厳正な審査を行いつつ,若手研究	究者のサポートも実施し
	Α	改	善	ていきたい。	
				■申請者に対して申請書提出期限等の周知徹底を図りたい(研究活動の一	-環としての手続遵守)
				■研究計画書等の書式等の改善は引き続き進めていく。	
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	y	7年度		■余裕をもって申請できるように日程を周知徹底する,分かりやすい書式 な手立てを講じていく。■退職による委員補充を迅速に行う。	式に改善するなど,必要
	5	通し		な子立しを講じていて。■区職による安負価光を迅速に117。	
	項目	1[事第	₹]	研究の実施計画の適否の審議 決裁・意見・委託・上程の別 報告	号 学長
	項目	事家	<u>₹</u>](こ{	系 る規程上の根拠 倫理審査委員会規程	
				会を開催し、申請が定期的に審査できる環境を整えた。	
		. •			
	項目	[事第	₹]	情報公開 決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事第	₹] に(系る規程上の根拠	
					申請手順」「委員名簿」
				昇し、研究倫理上の社会的責務を果たしている。 ゴルイルストペースとしたなから、Extra Bit はれい思いてたストンに関係な思い。	V=1 1-4 V=1 12-4
	■本字	公式!	フェラ	ブサイトにオプトアウトを含む研究の情報公開ができるように関係部署と様	€討する必要かある。
	-7.5		-7	the ten below on the state of the country of the co	
委員会が取り		事第		情報管理 決裁・意見・委託・上程の別	
扱った項目「事	項目			系る規程上の根拠	
扱った項目[事 案]のうち特に	■匿名	化の対	付応表	長について、保管場所の検討が必要である。	
状況等の記載を					
要する事項					
	T百F][事第	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
				┃	
	┦₽₽	は手え	€][-1	おる死性上の依拠	

項目[事案]		決裁・意見・委託・上程	の別	
項目[事案]に係	系る規程上の根拠			

整理番号	記屋	十学,+	、学短期大学部 	委員会名称	動物実際	矣				委員会
大短委-2018-14	加馬	八子・八	(子应朔八子司)	担当部局等	部局等	事務部	課	庶務課		
委員会設置の	根拠((規程等)	動物実験規程	第6条第2項、動物	実験委員	会規程				
		委員長	谷川弘治	副委員	長	岡部明仁				構成員数
構成			谷川弘治	尾上 均		目野郁子		岡部明仁		伸 戍貝奴
件 八		委 員	田川辰也							_
										5
委員会の役割に 関する事項(概 要)				動物実験計画の実 事項、その他動物9						大況及び実
在	\d		目[事案]			事案]の概要		決裁・意見 意見	• 委託 • . 学長	上程の別
平及重点項目 [事案]に関する 事項	適止な	な動物実際	険の実施体制の確	立動物実験と師	動物実験と飼養保管の適正化					
			[目[事案]	ച	該項目[哥	事案]の概要		決裁・意見		上程の別
年度重点項目 [事案] 以外に委			等の視察 皆に対する教育訓			施設等の視察		意見	学長	
貝云か取り扱う	動物ヲ	長	百に対する教育訓	裸 基本指針・即	養保官基	準に基づく教	以育訓練	意見	学長	
た項目[事案]に 関する事項										
	項	目[事案]	適正な動物実	験の実施体制の確立	決裁・対	意見・委託・	上程の別	意見	学長	
	Р	計画	■学内規程等	≧]によって、対象 により、動物実験言 。						管理運営体
		1	計画(の) た法	成するために「誰か	:. Γ <i>I</i> π +	 	: 1一仁 :	- + +\		過程の 評価
				成するにめに「誰か 適合した動物実験		_	_		整ってい	
	D	実施		注意を要する動物実	薬験は行わ	かない旨の学長	長決定をし	している。		■順 調□遅 延□未実施
年度重点項目		1			·	↓	1. <u>36.36</u> 1			結果の
[事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	С	評価	■各種マニュ	って計画(P)は達成 アルも整備されてお					は何か	評価 ■達 成 □前 進
										口維 持口停 滞
		Ţ	評価(C) なこ	まえて、次年度に行	こうべきー	↓ レ	ミキブルナ	71\- L		□後 退
	Α	改善	■マニュアル	の適切な運用を図る	0 0			, to 1 <u>C</u>		
		次年度 見通し		<mark>る計画(P)の修</mark> ፤ 実験が行われる際に				可能かどうかの	検証を行	· う。

	項目][事	案]	動物実験に関する規程等の整備 決裁・意見・委託・上程の別 意見 学長	
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		ļ		1	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		口順調
					□遅 延 □未実施
		ļ		↓ ·	結果の
				実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価
	С	評	価		□達 成 □前 進
					□維 持 □停 滞
		ļ		↓ ·	口後 退
				評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
	Α	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	ž	次年度			
年度重点項目	5	通し			
[事案]の計画/ 実施/評価に関	T石 F][事》	₽ 1	決裁・意見・委託・上程の別	
する事項	块口	1 L 77 2	*\]		
	_	=1	_		
	Р	計	画		
				<u> </u>	
		Ţ		↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
		ch	**-		□順 調
	D	実	肔		口遅 延
				<u>. </u>	□未実施
		Ţ		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
		評	/mc		口達 成
	С	āŤ	1		□前 進 □維 持
				<u> </u>	□停滞 □後退
		Ţ		→ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
		3 h	*		
	Α	改	晋		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
		n /= si=		大牛技における計画(P)の修正・支史・院正の兄通し 	
	ر ا	欠年度 見通し			

=								
	Р	計	画	委員会の運営・通常の審議経過 ■動物実験責任者が申請した動いるかどうかの審査を実施し、 ついて、必要に応じ助言を行う。	物実験計画が動物実験等し その結果を学長に報告する	こ関する法令及び	機関内規程は	に適合して
		1			↓			過程の
				計画(P)を達成するために「誰	が」「何を」「どのよう」	に行ったか		評価
				■動物実験計画の審査を1件行い	、動物実験のガイドライ	ンに適合した実験	(計画である	■順 調
	D	実	施	と判断し、承認した。				□遅 延 □未実施
		1			1			結果の
委員会の運営・		*		実施(D)によって計画(P)は達	▼ 成・前進したか / 達成・	・前進していないヨ	理由は何か	評価
通常の審議経過 等に係る計画/				■承認した動物実験計画につい				口達 成
実施/評価に関	С	評	価	たため、計画どおり実験が実施	されるかどうかは、次年月	度に明らかとなる。		口前 進
する事項								■維 持
					•			□停滞 □後退
		Ţ		悪体(の)ナンナミマ 次ケ座に	↓ <= > : <= + + + + + <= > : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <= + : <	t-=1-+11 = 1.		口夜 迟
				評価(C)をふまえて、次年度に ■審査の体制は整っており、今				
	Α	改	善	■番重の仲間は至ってわり、コ	及も割物大衆の過止な目を	当に分りる。		
	'`	~						
				次年度における計画(P)の修	正・変更・廃止の見通し			
	竹	マ年度		■特になし。				
		通し						
	項目	事案	2]	動物実験施設等の視察	決裁・意見・委託・上	程の別音見	学長	
			-	***************************************	量会規程第2条	124771 心力	1,7	
				の使用状況及び実験動物の飼養保		こよる視察・点検	を行った。	
	■今年	度は重	动物美	ミ験計画の申請はあったが、実験	は実施しておらず、飼育	動物もいない。飼)設備等に
	関して	は、窓	ミの返	然光、通気口から虫等が侵入しな	いように措置する必要があ	ある。		
	項目	[事案	[]	動物実験実施者に対する教育訓練	東 決裁・意見・委託・上	程の別意見	学長	
	項目	事案	[] (こf	系る規程上の根拠 動物実験委 動物実験委	員会規程第15条	•	U.	
)教育訓練・研修会に委員が1回参				
				トる外部検証の研修会に事務担当	者が1回参加した。			
	■ ~ 40	~ (100.	74) 1 <u>1</u> 5	修会の要旨を委員間で共有した。				
	百日	1[事案	?]		決裁・意見・委託・上	程の別		
委員会が取り				Ⅰ系る規程上の根拠	// 感光 安龍 工	1至07万寸		
扱った項目[事 案]のうち特に	次口	11.于木	:] ~ :	ボるが住工の依拠				
状況等の記載を								
要する事項								
							T	
		事案			決裁・意見・委託・上	程の別		
	項目	[事案	[] [こ{	系る規程上の根拠				
	項目	[事案	[]		決裁・意見・委託・上	程の別		
				系る規程上の根拠	決裁・意見・委託・上	程の別		
				系る規程上の根拠	決裁・意見・委託・上	程の別		
				系る規程上の根拠	決裁・意見・委託・上	程の別		

整理番号	記屋	上兴, 上兴	学短期大学部	委員	会名	称	学生個力	人情報	保護					委員会
大短委-2018-15		八子・八日	产起朔八子部	担当	部局	等	部局等	学生语	部	課	学生課	2		
委員会設置の	根拠((規程等)	「学生個人情	- 青報保護規	铡」	第14条								
		委員長	塚本 美紀			副委員:	Ę	舩越	淳子		池田	佐輪子		
			青木 芳恵	上	:村	眞生		舩越	淳子		塚本	美紀		構成員数
構成	;	委 員	高橋 幸夫	泄	1田	佐輪子		横溝	紳一郎		五十嵐	. 勝		
			三宅 利佳											9
	当 4.7	の個し桂却		+/-: (At.) =	ナフ	東西 /	当上の個	1 /= ±	コ の 安丁	佐田)ヶ目	日上フョ	武元 产	5.4L の.個	は却の間
委員会の役割に 関する事項(概 要)	示、言		保護の基本的 涂に関する事項 する。											
][事案]				該項目[導	事案]0	の概要		決裁	・意見	・委託・	上程の別
年度重点項目 [事案]に関する 事項	サイバ	ーリスクに対	するリスクマネミ	ジメント 保	:険0	り活用					決裁			
		T首E][事案]			业	該項目[編	主 家](カ押亜)	- 音目	. 季詳 .	上程の別
年度重点項目	個人情	青報の利用!	目的等の通知	入	学 -		文書を送			受領	八级	心心	女巾	工作
[事案]以外に委 員会が取り扱っ	個人怕	青報の取扱し	/周知	非	常重	動講師に	文書送付	(新規	見委嘱の	み)				
た項目[事案]に											<u> </u>			
関する事項											-			
	項	目[事案]	サイバーリスク	クに対する神	前償体	おりま	決裁・i	意見 ·	委託・.	上程の別	汐	——— -		
			当該項目[事											
	P計画		■ヒューマン 管理する個/ 人情報が漏泡 学科の学外9	人情報が源 曳した場合	弱洩 合の月	した場合 賠償リス	、また学 .クを補償	学生の 賞する	過失によ 保険にか	にり学外 入した	実習先だい。■2	が所有・ その上で	・使用・管 で、福祉等	管理する個 学科と栄養
		Ţ				5 - <i>u</i> • •	·	↓						過程の
			計画(P)を選 ■総務課、作							_		検討し	、一つの	評価
	D	実施	保険でリスク	ク検知から	う事]	態収拾、	再発防」	上まで	:のプロ-	セスに要	するコ	ストを	カバーす	■順 調
			る東京海上 を打診し、2	2019年度	から	法人単位	位で加入	決定。	。■これ	しに伴い	、	圏にも)	性負負担 栄養学科	口建 延 口未実施
年度重点項目			は、廉価な則	音償責任係	¦険	(学研賠)に切り	替え	る。					##用 の
[事案]の計画/ 実施/評価に関		+	実施(D)に。	よって計画	į(P)は達成	• 前進 l	たか	/ 達成	・前進し	ていた	い理由	は何か	結果の 評価
する事項	С	評価	■サイバース 情報漏洩事故 害保険料は、	故に係る名	卜種	損害を包	1括的に神	甫償す						
		1						Ţ						口後 退
			評価(C)を必 ■法人全体の										☆☆☆	と少の「斗
	A	改善	■伝入生体の イバーセキュ 努める。201	ュリティ紅	圣営	ガイドラ	イン」は	こ沿っ	て、法人	人単位では	というない	ロキュリ	経済性差	度目の 「り
			次年度におり	ける計画	(P))の修正	・変更	・廃止	の見通し	,				
		次年度	<u> </u>											

	項目	[事]	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		Ţ		→ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施		□順 調□遅 延
					□未実施
		1		↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	結果の 評価
	С	評	価		□達 成 □前 進
					口維 持口停 滞
		1		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	口後 退
	•	3h-	¥	計画(し)をかよんで、火牛皮に1) アンさこと / 1) アンさじはないこと	
	Α	QX.	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	<i>3</i> /	マ年度 見通し			
年度重点項目 [事案]の計画/	1				
実施/評価に関 する事項	項目	[事]	案]	決裁・意見・委託・上程の別	
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか	
	Р	計	画		
		ļ		↓	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
	D	実	施		□順 調□遅 延
		Ţ			口未実施 結果の
		*		実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価
	С	評	価		□達 成□前 進
					□維 持□停 滞
		Ţ		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	□後 退
	Α	改	善		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
	》 5	マ年度 見通し			

				委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にした	いのか
				「学生個人情報保護規則」等の学内規則の定めによる適正な取扱いについて周知を図	
	Ρ	計	画	に、審議が必要な事案が生じた場合は、国の定める法律やガイドラインに関する正しいと、実のある審議ができるようにしたい。	・理解のも
				と、夫切める奋餓からさるようにしたい。	
		ļ		1	過程の
		•		計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
				審議案件はなかった。	- uz
	D	実	施		□順 調□遅 延
					■未実施
		Ţ			結果の
委員会の運営・		*		* 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	神来の 評価
通常の審議経過 等に係る計画/				該当なし	口達 成
実施/評価に関	С	評	価		口前 進
する事項					■維 持 □停 滞
		Ţ			口停 滞口後 退
		*		→ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	- i
				該当なし	
	Α	改	善		
				▼ 次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
				大牛及における計画(F)の修正・変更・廃止の元通し	
	次	く年度 し通し			
	兄	.週し			
		·		14 th	
		[事案		決裁・意見・委託・上程の別	
		事系	€] ∟]	ボる尻性工の依拠	
		[事案		決裁・意見・委託・上程の別	
	- 垻日	事業	€] []	系る規程上の根拠	
委員会が取り		[事案		決裁・意見・委託・上程の別	
扱った項目[事	項目	[事案	₹] (こ{	系る規程上の根拠	
案]のうち特に					
状況等の記載を 要する事項					
X / U + A					
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	₹] (こ(系る規程上の根拠	
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	፪]に	系る規程上の根拠	

整理番号				委員	員会名称	情報シス	ステム管理運	耳			委員会
大短委-2018-16		大学・大学			旦当部局等 部局		事務部	課	情報システム	管理課	
委員会設置の	根拠((規程等)	情報システム	管理運	用委員会規程	1		•	•		
構成	ŧ	委員長	五十嵐勝		副委員長		マルコム・ロス・)	マルコム・ロス・ スワンソン			
			笹月桃子	-	上村眞生		劉明		構成員数		
		委 員	谷崎太	ì	浅野嘉延		藤川信幸	藤川信幸			
											9
委員会の役割に 関する事項(概 要)	■情情■ 情	報セキュリ報システム。 報システム。 報処理に係 ームページ	を含む情報シ ティに関する 利用者に関支援 る研修に関する に関する関項 ステムに関す	事項 及び違反 る事項			項				
年度重点項目			[事案]				事案]の概要		決裁・意見	• 委託 • .	上程の別
[事案]に関する		メディア語学教 リーPCスペー	対育演習室リプ		ルチノディア語学教育演 一 青報処理演習室じ				決裁 決裁		
事項		7 107	八队臣	'	HWCZIA E E	V/ C/19/11 C		N.E.	V 3X		
			[事案]				事案]の概要		決裁・意見	• 委託 • .	上程の別
年度重点項目 [事案] 以外に委	■情	報処理研修	宝延 長 間 坋		新任教職員及						
員会が取り扱っ た項目[事案]に	■ 1月	報処理側百	主処文用以	,	定期試験前の情報処理演習室開放時間の延長			7. 次数			
関する事項											
	- - T		- 14152 03	T >>/. +/	د د د اد ا	. I >± +1>	TO XX	LIBORI	NI III		
	垻	目[事案]	· ·		演習室リプレース				決裁		
	P 計	計画	■語学教育の	o ための D 陳腐化	LL教室として により、授業	て活用され きや自主等	ıてきた6208 ¢修での使用	3マルチメラ 頻度が大き	ディア語学教育 きく減少してV	演習室に	
		Ţ	計画(P)を通	を成せる。	たみに 「誰ヵ	シェ 「何ま	↓ : [[F	う」に 行っ	t- t)		過程の 評価
	D 実;	実施	■リプレース ションに対 ⁻	スに際し する評価	、事業者の選 は、教務部	選定をコン 、事務部	- ンペティショ 5、教員の代	- リン形式で:	たが 実施した。コン 先進性、教育	ノペティ 育への効	
		ı	果、学生への)訴求力	など、多角的	ひに評価を	ご行った。				口未実施
年度重点項目 [事案]の計画/		*	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						していない理由は何か		結果の 評価
実施/評価に関する事項	С	評 価							ヾとともに、Ar 用も増加してレ		■達 成 進 持 滞 目 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日
		Ţ	評価(C)をふ	いまえて	、次年度に行	iうべき :	↓ と / 行う	べきではな	こいこと		□後 退
	Α	改善善		した演習	習室は初めて				川用状況を検証	し、必要	そであれば
			次年度におけ	ける計画	(P)の修ī	E・変更	・廃止の見通	il			
		次年度 見通し	■特になし								

	項目[事案]			■フリーPCスペース設置 決裁・意見・委託・上程の別 決裁	
	Р	計	画	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか ■「2016年度学生生活に関する実態調査」において情報処理演習室の開放時間の延長の要望が多数出されたことを受け、情報処理演習室以外で利用できるパソコンやプリン備することで代替を図りたい。	
	D	⇒	施	計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■7号館2階ホールにパソコン3台、プリンタ1台を設置した。ネットワーク接続には、学生用無線LAN「SweetSpot」を利用し、学内ネットワークの情報セキュリティを保持している。 ■設置台数の適切性や学内ネットワークへの影響を検証するため、試験運用という形式で設置を行った。	口海 延
	C	↓ 評	価	↓ 実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か ■情報処理演習室閉室時に、ある程度の利用があり、開放時間延長や土曜開放の代替となり得ると見込んでいる。現状でパソコンの台数不足は感じられない。	結果の □■前維停後 □■□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□
		改	善	評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■学生の利用状況を検証しながら引き続き運用を行っていく。	
年度重点項目 [事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	次年度 見通し			次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し ■特になし	
, , , ,	項目[事案]		案]	決裁・意見・委託・上程の別	
	Р	計 ↓	画	当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいのか ↓ 計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	過程の 評価
	D	実	施		□順 調 □遅 延 □未実施 結果の
	С	評	価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価 □達 成 □前 進 □維 持
					口停 滞
		Ţ		↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	□後 退
	A	改	善	↓ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと 次年度における計画 (P) の修正・変更・廃止の見通し	□後 退

				委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にした	いのか
				■学内の情報サービスを断続することなく提供したい。	
	Р	計	画	■学生、教職員がよりよく情報サービスを利用できるよう情報システムの充実を図りたり	\ \ ₀
		1		↓	過程の
				計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか	評価
				■情報システムの保守、障害について、情報システム管理課が対応する。	■ 川方 三田
	D	実	施	■ 子工が 旧報 / これとよりよく作用できるよう、旧報を注頭目主の/マノノマハ、	■順 調□遅 延
					□未実施
		_			
委員会の運営・		Ţ		↓	結果の
通常の審議経過				実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か	評価
等に係る計画/	•	5 47	/ 		口達 成
実施/評価に関	С	評	価	■ は担切理や取点いたり (特別表でも) り (特)となり 明初によいでは労働力 パラのナウ	口前 進
する事項					■維 持 □停 滞
					口後 退
		*		→ 評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと	
				■Windows7サポート終了を受け、セキュリティリスクを考慮し、年間をとおしてWindo	ws10~0
	Α	改	盖	計画的な移行を実施していく必要がある。	WS10. (0)
	, ,	~	_		
				次年度における計画(P)の修正・変更・廃止の見通し	
				■特になし	
	次	と年度 L通し			
	Я	・地し			
	項目	[事案	₹]	情報処理研修 決裁・意見・委託・上程の別 決裁 決裁	
				系る規程上の根拠 情報システム管理運用委員会規程第2条	
				「入生に対して、情報処理研修を実施の上アカウント発行を行った。	
	■字内	の不り	ソトリ	7ーク、情報処理演習室の利用に必要な事項について研修を行った。	
	·古口	1.1年4	- 1	情報処理演習室の延長開放 決裁・意見・委託・上程の別 決裁	
		事第			
				系る規程上の根拠 情報システム管理運用委員会規程第2条	
				₹において、特に利用率の高まる定期試験前1ヵ月間、開放時間の延長を行った。 ₹報処理演習室については、例年通り高い利用率であり、延長開放は学生サービスの充実	に較がっ
	■足朔た。	PY 例欠 月	1] V	秋だ柱領目主に ブロスは、例中通り同い刊用半でのり、延及開放は十工り ころの元天	に発がり
	. = 0				
	項日	[事案	<u> </u>	決裁・意見・委託・上程の別	
委員会が取り				系る規程上の根拠	
扱った項目[事	것니	ニナオ	C] C .	が もの がり 足工 シャスプ と	
案]のうち特に 状況等の記載を					
状況等の記載を 要する事項					
X / U T X					
	項目	[事案	₹]	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	፪] に 信	系る規程上の根拠	
		[事案		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案	€] (こん	系る規程上の根拠	

整理番号				委員会名称	図書					委員会
大短委-2018-17		大学・大学	短期大学部 -	担当部局等	部局等	等 附属図書館 課		図書課		
委員会設置の	根拠(規程等)	図書委員会規	 見程		l				
構成	ŧ	委員長	南里宏樹 副委員長 八尋春海				池田佐輪子		1# b = 1#	
			石井美紀代	木村茂喜	木村茂喜 相良かおる			八尋春海		構成員数
	É	委 員	池田佐輪子	南里宏樹		西川 忍				
										7
委員会の役割に 関する事項(概 要)	■図書			に伴う予算配分に ご関する事項を審		を審議する。				
		項目	[事案]		当該項目[事案]の概要		決裁・意見	• 委託 •	上程の別
年度重点項目[事案]に関する					料費予算配分	の決定		決済		
事項	凶書飢	官報編集・発	经行	凶書館報	編集・発行			決済		
		項目	[事案]		当該項目[3	事案]の概要		決裁・意見	• 委託 •	上程の別
年度重点項目	除籍対	対象図書の承	(認		大学及び短期大学部の図書、AV資料の除籍					
[事案]以外に委員会が取り扱っ				ビデオテ	ビデオテープの廃棄					
た項目[事案]に 関する事項										
	項	目[事案]	図書館	資料費予算配分	決裁・	意見・委託・」	上程の別	決済		
	Р	計画	■2018年度図	案]によって、対 図書館資料費予算 I配分は、学科の	[総額を、図]	書費・新聞雑誌	き費・デ っ			分する。図
		1				↓				過程の
				ἔ成するために「 ₴分額は、年度契					預から減	評価
	D	実施	じた額とする を算出して	る。■学科別図書 己分する。■「20 己分案」を第2回図	・費は、各学 の18年度大学	科の学生数、学 図書館資料費 <mark></mark>	学納金額 記分案」	、図書貸出冊数 、「2018年度第	数の比率	■順調
年度重点項目		1	中性(5)に1	イ 計画 (D) け	法武 益准1	↓ <i>* *</i> * / *##	· **	ていたい理由	ナケム	結果の 評価
[事案]の計画/ 実施/評価に関 する事項	С	評価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進し ■2018年度図書館資料費予算配分は適正に行われた。■2018年 聞雑誌費:データベース利用料の配分比率は31:46:23であっ 費の比率は40:60で、昨年度比率42:58からさらに図書費が圧 た。					度の大学の図記 た。図書費: 新	書費:新 新聞雑誌	■達 成 □前 進 □維 持
		1	⇒ (-) / · ·	+=-	に作るペナー	↓ · h	±14-	SI		口後 退
	Α	改善善	■2019年度に まれるため、	、まえて、次年度 は、2年に1度の購 オンライン・ジ ∤を収集していく	読雑誌見直	ンの年となる。 含め、価格を考	外国雑語	志は今後もさら うえで図書と雑		
			次年度におり	ける計画(P) <i>σ</i>	修正・変更	・廃止の見通し	,			
		欠年度 見通し	なし							

	項目[事案]		<u></u> 案]	図書館報編集・発行	決裁・意見・委託・上程の別	決済	
				当該項目[事案]によって、対象(ーーー 何を・誰を)をどのような状態	にしたいのか	
	Р			■読書活動の推進並びに図書館広	報として、図書館報「要」第26	号を2019年1月に発行	テする。
		計	画				
		Ţ			↓		過程の
				計画(P)を達成するために「誰が			評価
	D	生	施	■第3回図書委員会において編集ま 卒業生1名に各委員から執筆依頼			~ ■順 調
		~	ne	発行、教職員や学院内各部署に配		, olo 1), (=1, oco p	口遅 延
							口未実施
		Ţ		中佐(り)によって計画(り)は法式	→ → × × × × × × × × × × × × × × × × × ×	ていたい四カは何か	結果の 評価
				実施(D)によって計画(P)は達成 ■編集・発行業務は、教員の協力			
	С	評	価	図書館新刊図書コーナーにおいて	、毎年掲載図書の展示を行って	ているが、定期試験の	
				期間中にも関わらず、展示図書を いる。	·借りていく利用者もあり、読言	 香活動の一助となっ、	□ 小庄 1寸
		1			ı		口停 滞口後 退
		•		評価(C)をふまえて、次年度に行	・ うべきこと / 行うべきではな	いこと	
				■図書館報発行の目的の一つであ		在学生への配付が重	要課題であ
	Α	改	善	る。今後もこの課題について模索	していく。		
				次年度における計画(P)の修正	・変更・廃止の見通し		
	'n	7年度		なし			
左座垂上西口		通し					
年度重点項目 [事案]の計画/							
実施/評価に関 する事項	項目[事案]				決裁・意見・委託・上程の別		
				当該項目[事案]によって、対象(何を・誰を)をどのような状態	にしたいのか	
	Р	計	画				
					<u> </u>		\G #0 @
		+		計画(P)を達成するために「誰が	↓ 「何を」「どのよう」に行っ	<i>t-か</i>	過程の 評価
	D	実	施				口順 調口遅 延
							口未実施
		Ţ			↓		結果の
				実施(D)によって計画(P)は達成	・前進したか / 達成・前進し	ていない理由は何か	評価
	С	評	価				口達成
	O	RT	IIIII				口前 進口維持
							口停 滞
		Ţ			→ · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	= 1	□後 退
				評価(C)をふまえて、次年度に行	うべきこと / 行うべきではな	いこと	
	Α	改	善				
				次年度における計画(P)の修	正・変更・廃止の見通し		
		, /= d=					
	- カ - 男	マ年度 見通し					

委員会の運営・ 通常の承議経過 等に係る計画/ 実施/評項	Р	計i		委員会の運営・通常の審議経過によって、対象(何を・誰を)をどのような状態にしたいの ■図書館利用促進のために、委員へは図書館ガイダンスや貸出冊数などの利用状況を報告し 知を図る。■蔵書の充実・適正化を図り、学生・職員の利用を促進する。■近年増加傾向に 学生の返却遅れについて、教員に理解と協力を求める。	し、周
	↓ D 実施			計画(P)を達成するために「誰が」「何を」「どのよう」に行ったか ■ガイダンスの告知及び受講状況や学科別の貸出冊数などの学生の利用実績を示し、 教員への周知を図った。■教員へ図書の選定についての周知を行い、図書選定を進め た。■除籍図書を確認・承認し蔵書の適正化を図った。■学科別遅延者の割合等をグラフ化し、学生指導について教員に理解と協力を求めた。	程価調延施調延施
	С	* 評 (価	実施(D)によって計画(P)は達成・前進したか / 達成・前進していない理由は何か 図書の選定については、全教員の72%が指定図書を選定して学生の利用促進に貢献した。■除籍すべき図書について確認・承認を行い、蔵書の適正化に務めた。■返却遅れの学生に対して、図書委員会で協力要請をしたことにより、多くの教員の協力を得ることができた。 □ 6	
	Α	改善		評価(C)をふまえて、次年度に行うべきこと / 行うべきではないこと ■図書館利用促進のために、教員を通して図書館ガイダンスの受講を推進する。 ■図書資料の利用促進を図るため、蔵書を充実させ、教員の選書を推進する。 ■学生の返却遅れについては、学生に社会のルールを身に付けてもらうためにも、教職協働り組んでいく。	
		(年度 通し		次年度における計画 (P) の修正・変更・廃止の見通しなし	
	項目	[事案]]	│ 除籍対象図書の承認 │ 決裁・意見・委託・上程の別 │ 決済 │	
	項日	「事室] (こほ	系る規程上の根拠	
	■資料 冊、短	の適正 期大学 プ約60	な管 :部1:	管理のため「大学図書館除籍内規」に基づき除籍図書の承認を行った。■2018年度は、図書力349冊、AV資料大学17点、短期大学部5点の除籍を承認した。合わせて大学創設時に購入したについて、既に再生機器がないこと、ビデオテープの劣化が予想されることから、廃棄する	とビデ
	項目	[事案]]	決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	「事案] (こほ	系る規程上の根拠	
루밀스 샤 때 11	項目	[事案]]	決裁・意見・委託・上程の別	
委員会が取り	項目	[事案]]にほ	系る規程上の根拠	
扱った項目[事 案]のうち特に 状況等の記載を 要する事項	·= 0		1	** # # # # # # # # # # # # # # # # # #	
		[事案]		決裁・意見・委託・上程の別	
	項目	[事案]]にほ	系る規程上の根拠	
	項目	[事案]	1	決裁・意見・委託・上程の別	
				大坂 あた 女祀 エほのが	
	垻日	[尹杀.	J I ~ 1₹	ボる別性エリ作機	